

令和 4 年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
自己評価書

横浜市立南高等学校

<学校情報>

1 課程・学科 全日制普通科

2 学校長 遠藤 広樹 （令和5年4月1日現在 在職3年目）

3 学校教育目標

(1) 教育理念

知性・自主自立・創造

(2) 教育目標

- 学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成
- 自ら考え、自ら行動する力の育成
- 未来を切り拓く力の育成

4 教育方針

○高い学力を身につける

基礎基本に基づいた高い学力を身につけさせるとともに、科学的探究を通して学問や芸術への興味関心を育てる

○豊かな人間性をはぐくむ

生徒が、健全な心と身体を培い、生きる力を身につけ、豊かな人間性をはぐくむ

○グローバル人材を育成する

自他の人権を尊重する精神と集団の中で協力的に問題解決をする力を身につけ、グローバル社会で活躍できる人材を育成する

5 教職員数（令和4年12月1日現在）

学校長	<u> 1 </u>	校長代理	<u> 0 </u>	副校長	<u> 2 </u>	事務長	<u> 1 </u>
教諭	<u> 53 </u>	（男 <u> 35 </u> 、女 <u> 18 </u> ）		養護教諭	<u> 2 </u>		
実習助手	<u> 1 </u>	事務職員	<u> 4 </u>	技能職員	<u> 4 </u>		
A E T	<u> 2 </u>	非常勤講師	<u> 11 </u>	管理員	<u> 0 </u>		

6 生徒在籍数（令和4年12月1日現在）

年次（学年）	学級数	男子	女子	合計
1	5	95	97	192
2	5	93	101	194
3	5	89	88	192
4				
合計	15	277	301	578

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		62	62	100%
生徒	1年	192	162	84.9%
	2年	194	174	90.0%
	3年	192	151	78.9%
	4年			.%
	合計	578	487	84.3%
保護者		578	311	53.8%

8 自己評価実施日

教職員	令和4年11月14日～令和4年11月21日
生徒	令和4年11月22日～令和4年12月6日
保護者	令和4年11月16日～令和4年11月24日
地域	令和4年11月21日～令和4年12月21日

9 集計・分析期間

令和4年12月12日～令和5年1月13日

10 自己評価書の公表方法・時期

令和5年5月に、ホームページ上で公表する。

<自己評価>

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員 1～12、生徒 1～14、保護者 1～10)

取組	<p>①市立高校の魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・中高一貫教育校として6年間を見通したカリキュラムの作成、中高の教職員の協働による計画的で継続的な教育活動に取り組んでいる。・横浜市からの指定を受けたスーパーグローバルハイスクール（横浜版SGH）としての教育活動について、令和元年度までの文部科学省指定SGHでの活動を継続することを前提に、「総合的な探究の時間」を活用した教科横断型の探究活動「TRY&ACT」の不断の見直しを行っている。〔課題研究、企業・大学による講演・ワークショップ等〕・横浜市教育委員会より指定を受けた進学指導重点校として、教員の授業力や進学指導力の向上に取り組んでおり、令和4年度も土曜講座の開催（3年生）、長期休業期間中の補講・補習の充実、進路相談の充実、外部模擬試験等の活用、学習環境の整備を行った。〔中高合同授業研究会、模擬試験の実施、模試解説会（生徒対象）、模試分析会（教員対象）、補講・補習の実施、図書館開放（自習用）等〕・特別活動を通して問題解決能力、コミュニケーション力の向上を目指し、自主自立の精神の涵養に取り組んでいる。〔特別活動（学校行事・生徒会行事・部活動 等）〕 <p>②進路希望実現への支援</p> <ul style="list-style-type: none">・①の進学指導重点校としての取り組みに加え、大学・企業・専門機関等と連携し、平素の授業以外にも専門的で高度な学習の機会を提供している。〔TRY&ACT、高大連携講座、大学別説明会、分野別説明会 等〕 <p>③市立高校におけるグローバル人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none">・①の横浜版SGH、総合的な探究の時間での取り組みを通して、グローバルな視点を身に付けさせる指導を継続して行っている。・総合的な探究の時間（TRY&ACT）を活用し、課題研究の深化、異文化理解、デザイン思考力・論理的思考力の育成に取り組んだ。〔企業・大学と連携した講演会、講座、ワークショップ 等〕・横浜市教育委員会の海外大学進学支援プログラム（ATOP）の拠点校として、生徒の海外大学への進学支援を行っている。
----	---

成 果

①市立高校の魅力づくり

- ・「教育活動について」の生徒への設問1～7全てにおいて「そう思う」「ややそう思う」を合わせた肯定的な回答（以下、肯定的回答）が概ね80%～90%台前半である。（肯定的回答の目標値は70%以上）
- ・生徒への設問7「総合的な探究の時間」では、主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった」において、87.2%と、令和3年度（80.6%）より上昇している。
- ・生徒への設問8「本校の生徒であることに誇りを感じている」では、肯定的回答が89.7%となり令和3年度（87.9%）からさらに上昇している。
- ・保護者への設問1～5全てにおいて、肯定的回答が70%台後半から90%台前半である。設問4「学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している」が89.4%と令和3年度（79.1%）より大幅に上昇している。学校行事を中止せず、通常に戻りつつある状況を反映しているものと思われる。
- ・生徒への設問1「ホームルーム（学級）で良好な人間関係を築いている」の肯定的回答が93.5%、保護者への設問3「お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている」が93.0%と高い評価となっている。
- ・教員への設問7「生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している」において、肯定的回答が77.8%と令和3年度（80.6%）より若干下がっているが、70%台後半となっている。

以上の評価から、本校の教育理念の一つである「自主自立」の精神に基づき、生徒の主体性を重視した教育活動が適切に行われている成果であると判断し、今後も生徒・保護者・教員が目標を共有しながら、継続した指導を学校全体で取り組んでいく。

②進路希望実現への支援

- ・進路に関する生徒への設問13「希望する進路のために必要な科目や、興味・関心を満たす科目が設定されている」、設問14「進路説明会等での進路に関する情報を十分に理解している」への肯定的回答が90%を超えており、良い結果が得られた。また、保護者への設問10「希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている」への肯定的回答も81.4%と、目標よりも上の数値となっている。生徒による授業評価に関しても概ね高い評価となっており、教職員の教科指導に関する設問4～6では、70%台前半から90%台前半の評価が得られている。

	<p>以上の評価から、本校教職員の、生徒の進路実現に向けた強い意欲と教科指導力向上への改善・研究・研修の努力が認められていると判断している。</p>
成 果	<p>③市立高校におけるグローバル人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学校評価アンケートの設問項目には該当するものがないため、具体的な数値は測れないが、「総合的な探究の時間」や本校独自の育成システムである「グローバルリーダープロジェクト（GLP）」における生徒の主体的な取り組みや成果から、社会的事象をグローバルな視点から捉え、課題解決しようとする姿勢が見られる。
課 題	<p>①市立高校の魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動や学校生活に関する生徒・保護者及び教職員の評価は、年々向上している。これは教職員集団が生徒に寄り添った指導を行い、保護者との協力・連携を通して得られた結果として評価できる。今後も生徒・保護者と学校が協力しながら課題の解決に向け取り組んでいく。 ・地域の方々の学校評価では、10の設問のうち半数は「わからない」という回答である。残りの半数については50%前後の肯定的回答を得られている。「わからない」という評価を減らす努力を引き続き行う。 <p>②進路希望実現への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する設問については、生徒・保護者ともに高い評価を得られているが、生徒の評価と保護者の評価に10ポイント近くの開きがあり、生徒の方が高い。保護者への情報の発信等を適切に行い、この差を埋めていくよう努力する。 <p>③市立高校におけるグローバル人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材育成で大きな役割を果たしてきた2学年の「海外研修旅行」が当面実施できなくなったが、国内研修旅行については「英語を使用する場面」に配慮し活動内容の検討を続ける。また、これまで通り海外からの留学生の積極的な受け入れと交流等のさまざまな活動・取り組みを通し、国内でできる「グローバル人材の育成」のためのプログラムの開発と提供に取り組む。

改善策	<p>①市立高校の魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も、附属中学校とともに学習指導や生徒指導についての研究や、授業改善に向けた取り組みなどを継続し、授業をはじめとする様々な活動における質的な向上を目指していく。 ・今後も本校の教育活動の情報を地域に向け発信していく。コロナに関わる制約がある中ではあったが、令和4年度は多くの学校行事が行われた。今年度は学校行事等で地域の方々との交流を持つことを模索していく。 <p>②進路希望実現への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる制約はまだあるものの、令和4年度は対面での保護者説明会を開催できたことはよかった。今後も引き続き保護者への情報提供を続けていく。 <p>③市立高校におけるグローバル人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外への渡航について、一定の制限がある中ではあるが、横浜版SGHによる国内宿泊研修や、留学生との交流など、グローバル教育充実のためにさまざまな機会を設定し、工夫したプログラムを用意することも必要と思われる。
------------	---

2 教育活動の状況

□進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 10 、生徒 13・14 、保護者 1・10)

<p>取 組</p>	<p>教職員⑩ 大学入試の結果分析会の実施、外部の入試研究会や入試動向、最新入試情報などの講演会への案内や資料の提供を行った。模試分析会を通して生徒状況の共有を行った。</p> <p>生徒⑬ 土曜講座、夏期講習、冬期講習、直前入試対策講座などの各種講座を実施し、生徒の更なる学力向上を図った。</p> <p>生徒⑭ 講師を招いて進路ガイダンスを各学年2回実施した。</p> <p>保護者① 模試を1, 2年生では4回、3年で8回実施。面談については、1, 2年で夏と秋、3年では夏と秋に加え入試前後、また、それ以外の場面でも適宜面談を実施。</p> <p>保護者⑩ 進路通信を毎月発行し、進路保護者会を年2回実施した。秋にはオンライン配信を行い、より多くの保護者の方々との情報共有を図った。進路通信では、新教育課程についての最新情報や入試動向、各学年の進路関連の活動について情報の提供を行った。ホームページ上で進路行事に関する活動について掲載した。</p>
<p>成 果</p>	<p>教員⑩ 87.3%の教職員が「適切な方法で指導を行っている」と回答している。この値は令和3年度と比較して3.4%の上昇となった。</p> <p>生徒⑬ 94.5%が「希望する進路のために必要な科目や、興味・関心を満たす科目が設定されている」と回答している。</p> <p>生徒⑭ 93.9%が「進路説明会等での進路に関する情報を十分に理解している」と回答している。</p> <p>保護者① 88.7%が「進学重点校として、模擬テストや面談の充実などの適切な取り組みをしている」と回答している。模試の重要度が上がる高学年に向けて、評価のパーセンテージが上昇している。</p> <p>保護者⑩ 全体では81.4%が「希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われた」と回答しているが、学年によっては80%を下回る学年もあった。</p>
<p>課 題</p>	<p>教員⑩ 年次進行で進んでいく新教育課程に向けて、最新の入試情報や動向を教職員全体で共有していく必要がある。</p> <p>生徒⑬ 土曜講座について、前後の行事とのバランスに課題があり、日程的な部分で生徒の負担増となってしまった。</p> <p>生徒⑭ 年間の進路説明会計画を講師と打合せを実施したが、こちらの要望が必ずしも組み込まれた内容となっていなかった。</p> <p>保護者① 高評価の成果ではあるが、昨今の社会情勢により模試料金や日程などに影響が及んでいる。</p> <p>保護者⑩ 進路通信のプリントが、生徒から保護者へ渡っていないケースが見受けられた。</p>

改善策	<p>教員⑩ 令和4年度に取り組んできた情報発信を更に強化していく。 具体的には、校内の情報共有システムを活用したり、資料を配布したりするなどして情報発信を行っていく。</p> <p>生徒⑬ 土曜講座について、日程的な面で前後の行事とのバランスを考え計画していく必要がある。</p> <p>生徒⑭ 講師との打合せを綿密に行い、それぞれ回の趣旨を組み込んだ講演内容としていく。</p> <p>保護者① 課題を踏まえ更なる模試の有効活用を探る。</p> <p>保護者⑩ インターネットを活用した、情報提供を模索していく。</p>
-----	--

□教育相談の状況

(関連アンケート番号：教職員8、生徒3、保護者3)

取組	<p>①各学期に面談期間を設けている。</p> <p>②気になる生徒について積極的に情報交換を行う。</p>
成果	<p>①令和2年度より、生徒・保護者において評価ポイントが上がっている。</p> <p>②担任、学年担当、特別CO、SC、SSWとの連携が図れる機会があり、生徒に対する理解が深まった。</p>
課題	<p>①面談期間以外でも常に生徒対応が必要である。しかし、会議が多く、放課後の時間帯に生徒と話をする機会が持ちづらい。</p> <p>②校内における特別Coの位置づけが明確でなく、生徒の困り感を共有する機会が限られる。</p>
改善策	<p>①学校全体として会議の効率化など意識する。</p> <p>②気になる生徒について学年や教科等から吸い上げ、関係する教員が情報の共有ができるようにする。</p>

□生徒指導の状況

(関連アンケート番号：教職員9、生徒5、保護者3・5・7、地域3～6・8)

取組	<p>・登校時の見守りを行いながら、登下校時のマナーやルール、公共機関での乗車マナーについて指導を行い、規範意識の向上について取り組んだ。</p>
成果	<p>・生徒・保護者各対象より肯定的な回答が微増した。</p>
課題	<p>・地域の方から、特に下校時の路上や乗車マナーについて課題が残る。</p> <p>・学校と地域とのつながりを模索する必要があると思われる。情報発信にも工夫が必要である。</p>
改善策	<p>さまざまな機会を使い、違った立場からの継続指導を行う。また、家庭との生活指導上の課題について共有し、連携を深める。地域の方々に信頼していただける生徒の育成に取り組む。</p>

□生徒会・委員会活動の状況

(関連アンケート番号：教職員 7、生徒 2、保護者 4)

取組	令和3年度来、コロナウイルスによる学校教育への影響をできる限り少なくする取り組みを行ってきた。その為、様々な行事を学校全体で生徒相互が協力しあい、創意工夫の下に作り上げていかれるように、また学習の場としても、生徒主体の生徒会活動を意識して指導にあっている。また、生徒全員が参画し、つくりあげることができるよう生徒と話し合いながら、工夫して生徒会活動を行っている
成果	生徒への設問2「生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている」への肯定的回答が81.7%と、令和3年度の74.9%から上昇している。また、保護者への設問4「学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している」でも肯定的回答が89.4%と令和3年度の79.1%より上昇している。コロナ禍ではあるが、生徒は生徒会行事に積極的に参加し、協力して行事を成功させようとする姿が見られる。生徒の委員会活動では制限のある時間の中で協力し合い活動ができていいる。今後も生徒の主体性と自主性に重きを置いた丁寧な指導を実践する。
課題	予測がつきにくい教育制限が続く事態に対し、立ち止まらずに効率的な活動ができるような生産的な話し合いのできるシステムを役員の中で考えていく必要がある。また、行事の準備にかける時間や話し合う時間の確保や、委員会に所属していない生徒が積極的に生徒会活動に取り組めるような工夫が更に必要である。
改善策	生徒会活動の年間計画の立案において、より効率的な活動計画を立案するとともに、生徒会活動に関して、委員の生徒はもとより、委員会に関わっていない生徒にも積極的に働きかけ、参加しやすい環境を整える。学年や他のセクションとも協力し、多くの生徒が機能的に参加しやすく、満足のできる生徒会活動を構築していく。

□学校生活の状況

(関連アンケート番号：教職員⑥、生徒⑧、保護者⑨)

取組	<p>教職員⑥ 教育課程研究委員会や各教科会、中高合同研究協議会等を通して、評価評定に関する研修や、評価規準の共有に取り組んだ。</p> <p>生徒⑧ 各ホームルームの運営や学校行事等を通し、全生徒が協働・協力の意識を培い、学習活動を含めて充実した学校生活を送れる環境を整えることにより、本校の生徒であることに誇りを感じられるような指導をおこなった。</p> <p>保護者⑨ 令和4年度は、令和3年度までのホームページ委員会を増員し、名称もICT・HP委員会と変更して定期的な委員会の開催など活動を活発化した。</p>
----	---

<p>成 果</p>	<p>教職員⑥ 82.5%の教職員が「適切な方法で評価・評定をおこなっている」と答えている。この値は令和3年度と比較して10%以上の上昇となった。観点別評価の導入に向け、多くの教職員が積極的に研究協議会等へ参加した成果だと考えられる。</p> <p>生徒⑧ 89.7%の生徒が「本校の生徒であることに誇りを感じている」と答えている。各ホームルームや学校行事等における環境を整えた成果だと考えられる。</p> <p>保護者⑨ 94.5%の保護者が「学校の様子を配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適正に伝えている」と答えている。定期的な委員会の開催による情報共有と、こまめなホームページの更新をおこなった成果だと考えられる。</p>
<p>課 題</p>	<p>教職員⑥ 令和5年度以降、年次進行ですべての学年において観点別評価が導入される。各教科内だけでなく、教科を跨いだ評価規準の共有が必要になる。</p> <p>生徒⑧ 「本校の生徒であることに誇りを感じているか」という設問に対して、年ごとに数値の上昇が見られるが、学年別にみると3年生の数値がやや低い。</p> <p>保護者⑨ 令和5年度以降、クロムブックの生徒一人一端末貸与が始まる。授業や委員会活動などにおいて便利になることは間違いないが、一人一端末貸与のマイナス面への対応が必要になる。</p>
<p>改善策</p>	<p>教職員⑥ 令和4年度に取り組んだ教育課程研究委員会や各教科会、中高合同研究協議会等を通して、評価評定に関する研修や、評価規準の共有を継続していく。</p> <p>生徒⑧ ホームルーム活動や学校行事、日々の授業等を通して、生徒の自己肯定感を育み、本校の生徒であることを誇りに感じられるように指導する。特に学校行事については内容を吟味し、より活性化させることで生徒の参画意識を高める必要がある。</p> <p>保護者⑨ すでに貸与をおこなっている附属中学校と密に連携し、情報を共有する。また、クロムブックを活用するため、教職員対象の研修をおこなう。</p>

3 学校経営の状況

□学校教育目標、経営方針の推進状況

(関連アンケート番号：教職員 13・14)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標実現に向け、校長の学校経営方針に基づいて各学年・各分掌・各教科において主任を中心に協力・工夫を重ねながら学校運営に取り組んでいる。横浜市教育委員会より指定を受けている横浜版スーパーグローバルハイスクール事業においては、国際企画部と学年が協働し、企画・運営を行っている。大学や企業等と連携しながら、講演会や講座、ワークショップ等を開催し、生徒の探究活動がより深化しグローバルリーダーとしての素養を育むよう指導している。 ・学校経営方針に基づき、さまざまな活動を学年・分掌・委員会等で分担・協力し行うことで学校全体としての教育力を向上させている。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員への設問 13「学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。」への肯定的回答が 88.9%と、令和 3 年度の 79.0%に比べて大幅に上がった。 ・教職員への設問 14「学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。」についても肯定的回答が 88.9%と、令和 3 年度の 80.6%から上がっている。 <p>以上の評価から、学校教育目標の実現に向けた取り組みが教職員全体でなされており、円滑に学校経営が行われていると考えられる。</p>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年度に比べて肯定的な回答が大幅な伸びを見せているが、中高教育一貫校としてさらに諸活動を充実したものにしていくために、中高教職員の意思疎通を今後も図っていく必要がある。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や学校経営方針を中高教職員が常に意識して取り組めるよう、校長を中心に、職員全体で情報を共有し意思の疎通を図っていくような取り組みをしていく。

□組織運営及び教職員研修の状況

(関連アンケート番号：教職員 15・18)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度より高校と附属中学校が合同で分掌会と各種委員会を行っている。中高一貫教育校として、教職員全体の意思疎通が図れる体制となっている。 ・附属中学校との協働で、合同の校内授業研究会を企画、運営している。今年度の研究主題は「新学習指導要領に対応した学習評価の研究と実践」である。各教科で中高合同教科会を開催し、各教科で学習評価に関する研究の成果や改善点等をまとめ、職員全体で共有した。 ・教員の指導力向上に関しては、初任者および2年次研修、前期中堅教員研修（概ね5年次）、に該当している教員を中心に研究授業や研修会を実施し、授業力の向上に努めている。 ・令和5年度からの「一人一台端末」の実施に向け、環境整備に取り組んでいる。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員への設問15「一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である」への肯定的回答が82.5%、設問16「各学年の運営は、情報が共有され組織的取り組みが円滑に行われている」への肯定的回答が79.4%、設問18「教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている」への肯定的回答が82.5%と、令和3年度よりも上昇している。 <p>以上の評価から、教職員が互いに情報共有に努めながら意欲的に業務に取り組んでいると判断している。</p>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の多忙、負担の軽減に向け業務内容のさらなる精選を行い、より意欲をもって業務を推進しながらも無理のない職場環境づくりをする必要がある。 ・「一人一台端末」の実施に向けICT支援員のサポート体制を構築する必要がある。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中高教職員の意思疎通を図り、改善に向けたアイデア等を活発に出し合えるような場を作り出していく。 ・業務内容の見直しと、適切な業務の分担、分掌相互の情報共有を促進させ、学校全体として効率化を推進していくことで負担の軽減に結び付けていく。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応に関する項目

(関連アンケート番号：教職員 28、生徒 4、保護者 3)

取 組	いじめ解決アンケートや教育相談を利用し、生徒の様子を把握した。
成 果	クラスや学年において、共有をはかり対応することした。
課 題	いじめ認知からの動きが明確でなかった。 生徒との対話をする時間の確保が難しい。7時間授業、会議等で放課後の時間捻出が課題である。
改善策	いじめ認知のフローチャートを作成し、今後活用する。 教育相談・面談時間の確保を行う。7時間授業や会議の在り方を改善する必要がある。

令和4年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校

自己評価書資料
学校評価アンケート集計表

各教科授業評価
生徒アンケート
保護者アンケート
地域アンケート
職員アンケート

横浜市立南高等学校

1年（69期）		《2022授業評価》							
科目名		現代の国語							
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う	そ う 思 う	
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	23.1%	31.3%	37.3%	8.2%	54.5%		
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	53.0%	38.8%	6.7%	1.5%	91.8%		
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	64.2%	25.4%	9.0%	1.5%	89.6%		
授 業 や 先 生 に つ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	63.4%	29.1%	6.0%	1.5%	92.5%		
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	73.1%	24.6%	1.5%	0.7%	97.8%		
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	74.6%	22.4%	1.5%	1.5%	97.0%		
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	77.6%	16.4%	4.5%	1.5%	94.0%		
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	75.4%	20.9%	1.5%	2.2%	96.3%		
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	85.8%	11.2%	1.5%	1.5%	97.0%		
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	64.9%	30.6%	3.0%	1.5%	95.5%		

〈授業評価を受けて〉

（取組）

- ・ 観点別評価になったため、単元ごとに学びのプランを作成し、生徒に配布することで観点を明確化することができた。
- ・ クラスを2つに分ける少人数学習を行うことで、スピーチや発表を多く取り入れた学習をすることができた。また、作文や意見文などの評価や添削も十分に行うことができた。

（成果）

- ・ 少人数学習にすることで、生徒たちは意見が言いやすくなり活発に交流が行われた。
- ・ 少人数学習にすることで個人のスピーチや作品発表を多く行うことができ、伝え合う力がついた。

（課題）

- ・ 週2時間ということで、授業の進行を計画的に行う必要がある。（定期テストは期末のみ行った。）
- ・ 語彙力を養成するための取り組み（漢字の小テスト等）を定期的に行うことができなかった。

（改善策）

- ・ 来年度一人1台ICT端末が支給されるため、ICT端末を様々な活動で利用していく。

1年 (69期) ≪2022授業評価≫							
科目名		言語文化					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	36.6%	36.6%	19.4%	7.5%	73.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	36.6%	44.0%	15.7%	3.7%	80.6%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	59.0%	26.9%	11.9%	2.2%	85.8%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	46.3%	35.8%	10.4%	7.5%	82.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	61.9%	24.6%	8.2%	5.2%	86.6%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	51.5%	21.6%	12.7%	14.2%	73.1%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	47.0%	17.9%	20.1%	14.9%	64.9%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	42.5%	17.9%	15.7%	23.9%	60.4%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	56.7%	18.7%	8.2%	16.4%	75.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	44.0%	21.6%	17.9%	16.4%	65.7%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・観点別評価になったため、単元ごとに学びのプランを作成し、生徒に配布することで観点を明確化することができた。
- ・単元ごとに振り返りを書かせることで、授業で何が学べたのかを指導者が把握し、次に授業に活かせるよう心がけた。
- ・小テストを定期的に行い、基礎学力の定着を図った。

(成果)

- ・代替教員が何度か変わったにもかかわらず、項目 N02 や 3 の生徒が 8 割を超えていた。

(課題)

- ・令和 4 年度は教員が変わり、生徒がとまどう場面があった。なるべく教員間で指導プリントの統一や指導方法の共有を心がけたが、生徒とのやり取りで適切に対応できない場面があった。

(改善策)

- ・生徒の質問や意見に真摯に向き合う態度をもつようにしていく。

2年（68期）		《2022授業評価》							
科目名		現代文							
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う	そ う 思 う	
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	38.9%	31.5%	20.4%	9.3%	70.4%		
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	55.6%	35.2%	7.4%	1.9%	90.7%		
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	61.1%	31.5%	6.8%	0.6%	92.6%		
授 業 や 先 生 に つ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	72.2%	16.7%	7.4%	3.7%	88.9%		
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	87.0%	10.5%	1.9%	0.6%	97.5%		
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	86.4%	13.0%	0.0%	0.6%	99.4%		
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	86.4%	9.3%	3.7%	0.6%	95.7%		
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	88.9%	9.3%	0.6%	1.2%	98.1%		
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	87.7%	11.1%	0.0%	1.2%	98.8%		
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	87.0%	10.5%	1.9%	0.6%	97.5%		

〈授業評価を受けて〉

（取組）

評論、文学ともに、生徒主体で取り組むことができる授業展開を心掛けた。評論では要点を読み取り要約することで、読解力と記述力の向上を図った。文学においては、グループ活動やプレゼンテーションを通して、自分の考えを他者に伝えるとともに、他者の意見から多様な視点を学ぶ機会を設けた。

（成果）

授業に対しては主体的に取り組む生徒が多く、他者の意見から学ぶ姿勢も見られる。授業内での発言や課題への取り組みからは、文章中から要点を見つける力が伸びていることがわかる。

（課題）

予習復習に対する意欲が低く、小テストに対する取組も含め、予習復習が不十分であるために、個々の課題が克服できていない生徒が多い。多くの生徒において、要点を見つけることはできるものの、それらを文章としてまとめることや、わかりやすく他者に伝えることに課題がある。

（改善策）

自らの記述や発表内容を客観的に振り返る時間を設け、自らの課題を明確にさせ、予習復習の意欲へとつなげる。

2年 (68期) ≪ 2022授業評価 ≫							
科目名		古典B					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や う や そ う 思 う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	56.2%	27.2%	11.1%	5.6%	83.3%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	60.5%	29.0%	8.6%	1.9%	89.5%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	71.6%	19.8%	7.4%	1.2%	91.4%
授 業 や 先 生 につ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	77.2%	13.0%	8.6%	1.2%	90.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	92.0%	4.9%	1.9%	1.2%	96.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	85.8%	9.3%	4.9%	0.0%	95.1%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	85.2%	8.0%	4.9%	1.9%	93.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	81.5%	13.6%	2.5%	2.5%	95.1%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	90.1%	6.2%	3.1%	0.6%	96.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	84.0%	11.7%	3.1%	1.2%	95.7%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

小テストや課題、授業を通して、文法や語彙の知識の定着を図り、授業内では、それらの知識を活用して文章を読み取る活動を主に行った。また、文化的な背景や思想などについて、自分の考えを他者に伝える活動も行った。

(成果)

日々の授業を通して文法、語彙、文化に触れ、小テストや定期試験の機会に予習復習をすることで、知識が身につけてきている。

(課題)

多くの生徒において、予習、復習ともに、小テストや定期テストを目的とした最低限のものになってしまっている。その結果、長期的な知識として定着しておらず、初見の文章では、一度身につけたはずの知識を十分に活用できていない。

(改善策)

より長期的な知識として活用できるよう、定期テストや模試の解きなおしで自身の課題を見つけさせ、それを克服するための予習復習を促す。知識のアウトプットとして演習の機会を増やす。

3年 (67期) ≪2022授業評価≫							
科目名		現代文B					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	53.3%	12.4%	14.6%	19.7%	65.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	72.3%	20.4%	6.6%	0.7%	92.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	74.5%	14.6%	7.3%	3.6%	89.1%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	74.5%	16.1%	6.6%	2.9%	90.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	82.5%	12.4%	3.6%	1.5%	94.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	78.1%	12.4%	5.8%	3.6%	90.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	78.1%	10.2%	7.3%	4.4%	88.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	86.1%	8.0%	3.6%	2.2%	94.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	89.8%	8.8%	0.7%	0.7%	98.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	78.1%	13.1%	5.1%	3.6%	91.2%

〈授業評価を受けて〉

(取組) 読解力向上のため、4 単位現代文は新聞要約、2 単位現代文は短時間で実施できる問題集を導入し色々な分野の文章に多く触れられるよう心掛けた。また、4 単位、2 単位ともに夏休みまでは教科書読解と問題集を並行して取り組むことで論理的に読解できるように学習を計画的に遂行した。論理的な読解力をさらに定着させるために、夏休み以降は問題演習に取り組み、個人だけでなく、グループでも意見交換をさせることで、考えを深める取り組みを実施した。

(成果) 個人で演習に取り組み、グループで考えを深めることができた。新聞記事に触れることで社会問題にも関心をもたせることができた。授業内で、90%を超える生徒が授業内で理解できた、または身についたと回答していることから、概ね取り組みの成果は達成できていると考える。

(課題) 授業評価における予習率の低さから、授業以外で文章に接していないことが懸念される。

(改善策) すべての学習の基礎となる読解力を養う「現代文」であるから、日ごろからまとまった量の文章を主体的に読み、要約したり、自分の考えを表現したりすることを続ける。

3年 (67期) ≪2022授業評価≫							
科目名		古典発展					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	70.9%	18.6%	7.0%	3.5%	89.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	73.3%	22.1%	4.7%	0.0%	95.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	81.4%	15.1%	2.3%	1.2%	96.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	83.7%	11.6%	4.7%	0.0%	95.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	89.5%	9.3%	1.2%	0.0%	98.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	88.4%	9.3%	1.2%	1.2%	97.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	83.7%	9.3%	3.5%	3.5%	93.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	82.6%	11.6%	4.7%	1.2%	94.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	90.7%	7.0%	2.3%	0.0%	97.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	80.2%	12.8%	5.8%	1.2%	93.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組) 古文、漢文ともに基本的な事項を定着させるため、小テストを実施した。また、古文、漢文をバランスよく取り扱いながら、夏休みまでは教科書読解と問題演習を並行して取り組み、学習が深められるよう留意した。さらに、2 学期以降は問題演習量を増やし、色々なジャンルの問題に触れられるよう工夫した。

(成果) 古文、漢文ともに模試や共通テスト等でも安定した成果に繋がった。令和3年度の反省をふまえ古文、漢文ともに問題演習の量を増やし様々な問題に取り組むことで一定の成果が得られた。授業内で、95%を超える生徒が授業内で理解できた、または身についたと実感をもって回答していることから、概ね取り組みの成果は達成できていると考える。

(課題) 概ね高い評価を得られているが、予習、復習の観点のみ他の評価と比較して若干評価が低いことから、授業以外でさらに文章に触れていないことが懸念される。

(改善策) 教科書読解に触れる機会では、理解できていないことを自覚する機会として、自分自身で品詞分解をしたり、逐語訳をつけたりするなどの予習やさらに自分自身では理解できなかったことを復習する重要性を認識してもらい、さらなる自学自習が進むように学習を促す。

3年（67期）≪2022授業評価≫							
科目名		国語表現					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う や そ う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	83.9%	9.7%	3.2%	3.2%	93.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	87.1%	12.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	90.3%	6.5%	3.2%	0.0%	96.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	90.3%	6.5%	3.2%	0.0%	96.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	90.3%	3.2%	6.5%	0.0%	93.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	93.5%	3.2%	3.2%	0.0%	96.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	93.5%	3.2%	3.2%	0.0%	96.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	96.8%	3.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	93.5%	3.2%	3.2%	0.0%	96.8%

〈授業評価を受けて〉

（取組）国語表現の主たる目的が小論文演習であるため、一学期までは、小論文の基本的な書き方を習得し、二学期以降は、個人の目的に応じて授業を計画的に実施した。個人の要望や目的をしっかりと把握し、個々それぞれに必要な取り組みをバランスよく配置した。生徒の表現力を向上させるため、個々で添削を実施した。

（成果）個人の目的に応じて少人数展開で授業を展開することで、生徒の目的は概ね達成できた。授業内で、100%の生徒が授業内で理解できた、または身についたと実感をもって回答していることから、取り組みの成果は達成できていると考える。

（課題）少人数展開、生徒の個人の目的に応じた授業展開を実施するために、個々の生徒の要望や目的を十分やり取りをすることが求められる。

（改善策）上記課題を念頭に、今後も、今年度同様公平な生徒理解に努め、安心して質問できるように取り組む。

1年（69期）《2022授業評価》							
科目名		歴史総合					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	47.0%	26.1%	22.4%	4.5%	73.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	67.2%	26.1%	5.2%	1.5%	93.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	72.4%	21.6%	4.5%	1.5%	94.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	85.1%	9.7%	3.7%	1.5%	94.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.0%	6.7%	0.7%	1.5%	97.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	90.3%	7.5%	0.7%	1.5%	97.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	94.0%	3.7%	0.7%	1.5%	97.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	88.8%	7.5%	2.2%	1.5%	96.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	95.5%	3.0%	0.0%	1.5%	98.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	90.3%	6.7%	1.5%	1.5%	97.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組) 第一次世界大戦から第二次世界大戦までのヨーロッパ、アジア、日本に関する歴史を扱った。

様々な歴史的事象は、当時の政治、経済、思想などに触れながら解説できるよう心掛けた。また、生徒が自ら内容を深められるようレポート作成の課題を出した。

(成果) 様々な歴史的事象について、自ら調べ深める姿勢が身についてきた。日本史はもちろんのこと、世界史の内容にも興味を持つようになった。

(課題) 内容が広範囲のため、扱う時代や内容の精選が必要である。

(改善策) 生徒が思考できる時間を増やすため、配布プリントや発問の方法を工夫していく。

1年(69期) ≪2022授業評価≫							
科目名		公共					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や そ う や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	50.7%	23.9%	19.4%	6.0%	74.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	64.9%	27.6%	3.7%	3.7%	92.5%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	72.4%	23.1%	3.0%	1.5%	95.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	80.6%	14.2%	3.7%	1.5%	94.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.8%	6.0%	0.7%	1.5%	97.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	85.8%	10.4%	2.2%	1.5%	96.3%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	89.6%	6.0%	3.0%	1.5%	95.5%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	89.6%	6.7%	2.2%	1.5%	96.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	94.0%	4.5%	0.0%	1.5%	98.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	83.6%	12.7%	1.5%	2.2%	96.3%

〈授業評価を受けて〉

(取組) 直近のニュースや現代の課題を使って型通りではなく、その時の問題を大切にしながら単元の学習に取り組むことを心掛けた。また、観点別の授業ということで、どの観点を中心にするか単元によって検討し、課題等に活かした。

(成果) 毎時間の振り返りコメントなどから、今起きていることをニュースの世界だけでなく、自分事としてとらえようとする生徒が徐々に増えてきた。しかし、予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んだ生徒が「そう思う」で半数を超えているのは、大学受験の第1科目でなく、ちょっと高すぎかなと感じてしまうので、割引いて捉えたい。

(課題) 取り扱う内容が、特に政治分野では、どのような点が問題なのかといった問いかけに難しさを感じる生徒も多く(各クラスの学級日誌の授業コメントで特に政治分野の時は「難しい」という感想が多く見られた。)、普段からどれだけ興味を持ってもらうかといった点について、新たな仕掛けを工夫していきたい。

(改善策) 授業の初めに生徒が自分で調べた気になるニュースを発表する場面を設けたいと考えたが、課題をさらに増やすことにもなり、人前での発表に負担を感じる生徒も多く、自分の番の時に欠席したり、やる気を失うのは本末転倒なので、授業中に自分の思考を深めることを根気強くしていくことで、現在の事象について自分なりの考えが生まれ、そこから興味が徐々に持てるようにすることを続ける。

2年 (68期) ≪2022授業評価≫							
科目名		世界史B					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や う や そ う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	57.8%	35.6%	4.4%	2.2%	93.3%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	53.3%	44.4%	2.2%	0.0%	97.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	82.2%	17.8%	0.0%	0.0%	100.0%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	93.3%	4.4%	0.0%	2.2%	97.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.1%	8.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	97.8%	2.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	93.3%	4.4%	2.2%	0.0%	97.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	95.6%	4.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	97.8%	2.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	95.6%	4.4%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組) 3年の世界史発展、世界史応用に繋ぐ講座で、前近代(古代・中世)を扱った。

(成果) 基礎基本の定着を最優先課題として取り組み、世界史に対する興味・関心のある程度喚起出来たと考える。受験に向かう姿勢も構築できた。

(課題) 進度がやや遅めであった。もう少し進捗速度を速めたい。

(改善策) 生徒自身が自主的に取り組める単元と、丁寧に説明尽くすべき単元をより明確にする。

2年（68期）《2022授業評価》							
科目名		日本史B					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や う や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	61.3%	32.3%	3.2%	3.2%	93.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	58.1%	38.7%	3.2%	0.0%	96.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	64.5%	32.3%	0.0%	3.2%	96.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	83.9%	12.9%	0.0%	3.2%	96.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	90.3%	6.5%	0.0%	3.2%	96.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	90.3%	6.5%	0.0%	3.2%	96.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	87.1%	3.2%	6.5%	3.2%	90.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	83.9%	12.9%	0.0%	3.2%	96.8%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	87.1%	9.7%	0.0%	3.2%	96.8%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	87.1%	9.7%	0.0%	3.2%	96.8%

〈授業評価を受けて〉

（取組）3年の日本史発展、日本史応用につなぐ講座で前近代（古代・中世）を扱った。

（成果）基本的事項の定着をはかりながら、日本史学習の面白さを伝えることができた。世界史との関連を意識した授業がある程度できた。

（課題）習熟度の低い生徒の引き上げをさらにはかる必要がある。

（改善策）問題演習の精選。

2年（68期）		《2022授業評価》					
科目名		現代社会					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や う や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	37.0%	29.0%	24.7%	9.3%	66.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	63.0%	24.7%	8.0%	4.3%	87.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	64.8%	28.4%	4.3%	2.5%	93.2%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	77.8%	12.3%	5.6%	4.3%	90.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	81.5%	11.7%	4.3%	2.5%	93.2%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	84.6%	9.9%	3.1%	2.5%	94.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	79.0%	13.0%	1.9%	6.2%	92.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	79.0%	11.7%	3.1%	6.2%	90.7%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	90.1%	6.8%	0.6%	2.5%	96.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	73.5%	20.4%	3.7%	2.5%	93.8%

〈授業評価を受けて〉

(取組) 3年の倫理、政治・経済につなげるため、1学期が倫理分野、2学期が政治分野、3学期が経済分野を扱った。

(成果) 大学受験にも対応できるように基礎的な知識の定着を図ることができた。

(課題) 生徒たちの政治、経済への関心をより高めていく必要がある。

(改善策) 生徒たちが思考する時間をつくれるように配布プリントや発問の工夫をしていく。
問題演習の精選。

3年 (67期) ≪2022授業評価≫							
科目名		世界史B					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ い う	思 や う や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	57.8%	35.6%	4.4%	2.2%	93.3%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	53.3%	44.4%	2.2%	0.0%	97.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	82.2%	17.8%	0.0%	0.0%	100.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	93.3%	4.4%	0.0%	2.2%	97.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.1%	8.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	97.8%	2.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	93.3%	4.4%	2.2%	0.0%	97.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	95.6%	4.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	97.8%	2.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	95.6%	4.4%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

生徒自身が世界史学習に対し、主体的に臨み学習内容を理解しようとする力を育成してきた。

(成果)

生徒それぞれが意欲的に取り組み、学習内容を吸収、定着させた。

(課題)

資料活用・分析能力をさらに向上させたい。

(改善策)

ICT 機器を活用して学習効果を高める。

3年 (67期) ≪2022授業評価≫							
科目名		世界史応用					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	77.3%	13.6%	9.1%	0.0%	90.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	86.4%	13.6%	0.0%	0.0%	100.0%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	77.3%	18.2%	0.0%	4.5%	95.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	90.9%	4.5%	0.0%	4.5%	95.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	81.8%	13.6%	0.0%	4.5%	95.5%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	86.4%	9.1%	0.0%	4.5%	95.5%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

高い学習内容を確実に理解させたいと、生徒自身の考察を加え、広い知識・理解を定着させようと努めた。

(成果)

生徒各自が主体的に取り組む、広い知識と思考力を身に付けた。

(課題)

資料活用・分析能力をさらに向上させたい。

(改善策)

ICT 機器を活用して学習効果を高める。

3年 (67期) ≪2022授業評価≫							
科目名		日本史発展					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や う や そ う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	90.4%	7.7%	0.0%	1.9%	98.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	96.2%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	96.2%	1.9%	0.0%	1.9%	98.1%
授 業 や 先 生 につ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	94.2%	3.8%	0.0%	1.9%	98.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	98.1%	1.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	96.2%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	98.1%	1.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	96.2%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	96.2%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	98.1%	1.9%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組) 通常の授業に加えて土曜日、定期試験期間、面談期間、長期休業期間に補習を行った。

(成果) 必要な範囲の講義を終え、問題演習の時間を確保することができた。

(課題) 基本は通常の授業内に全範囲を終えることにあり、進度に課題を残した。

(改善策) 教材の内容を精選し、説明の無駄を省くようにする。

3年（67期）《2022授業評価》							
科目名		日本史応用					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	90.4%	5.8%	1.9%	1.9%	96.2%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	94.2%	5.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	96.2%	1.9%	0.0%	1.9%	98.1%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	94.2%	3.8%	0.0%	1.9%	98.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	98.1%	1.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	96.2%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	94.2%	3.8%	1.9%	0.0%	98.1%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	96.2%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	96.2%	1.9%	1.9%	0.0%	98.1%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	96.2%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

（取組）通常の授業に加えて土曜日、定期試験期間、面談期間、長期休業期間に補習を行った。

（成果）必要な範囲の講義を終え、問題演習の時間を確保することができた。

（課題）基本は通常の授業内に全範囲を終えることにあり、進度に課題を残した。

（改善策）教材の内容を精選し、説明の無駄を省くようにする。

1年(69期) <<2022授業評価>>							
科目名 数学 I A							
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ な い	な そ う 思 わ ない	思 や う や そ う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	68.7%	22.4%	6.0%	3.0%	91.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	66.4%	25.4%	7.5%	0.7%	91.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	82.1%	12.7%	3.7%	1.5%	94.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	91.8%	6.7%	0.0%	1.5%	98.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	87.3%	9.0%	0.7%	3.0%	96.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	90.3%	5.2%	2.2%	2.2%	95.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	86.6%	6.0%	5.2%	2.2%	92.5%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	88.8%	7.5%	1.5%	2.2%	96.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	92.5%	3.7%	1.5%	2.2%	96.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	83.6%	9.7%	4.5%	2.2%	93.3%

〈授業評価を受けて〉

(取組) ①新たな学習指導要領が意図するところを可能な限り汲み取った指導計画・評価方法を現状でできる限り生徒にフィードバックできるような取り組みを試みた。
 ②教育課程の変更に伴う学習内容・その後の進路的な視点の変容等については、担当者(令和4年度は5名)間で可能な限り情報共有を図り、様々な取り組みを通して新課程が意図する学力の定着を図った。
 ③習熟度別のクラス編成を行うことで、より個々の生徒の実態に応じた教育活動になることを目指して授業を展開した。

(成果) 集計結果にも表れているように、年間計画や評価、学習内容の組み立てについては生徒にも一定の理解を得られた取り組みになったことが窺える。

(課題) 全体で見て「そう思う」「ややそう思う」と答えた生徒が9割を超えているが、予習復習や授業での定着度で7割弱の生徒のみが「そう思う」と回答している。予習や復習のやり方や定着度を上げられるように指導をしていきたい。新しい教育課程での学習内容の授業の取り組みを中心に改善については課題が残っている。新指導要領において述べられる学力観への転換の理解を深め、またこの点について多くの理解を得ながら、どのように実行していくかを模索していくことが課題。

(改善策) 集計結果にも表れているように、授業の「わかりやすさ」や「教材の効果」について、担当者間での検討を重ねていく。また、保護者記述では習熟度別クラスの高いクラスの生徒が授業の質が低いと感じるような授業展開をしてしまっているとの指摘があったため、こうした声を真摯に受け止め、習熟度の高いクラスの生徒が低いクラスに下がりたいと思わないような、習熟度別の高いクラスで更なる成長を遂げたいと思うような、生徒の実態に応じた教材研究を担当者間で協力して取り組む。

2年（68期）		《2022授業評価》							
科目名		数学ⅡⅢB							
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や そ う 思 う	そ う 思 う	
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	73.5%	18.5%	5.6%	2.5%	92.0%		
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	68.5%	20.4%	8.6%	2.5%	88.9%		
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	79.6%	13.6%	4.9%	1.9%	93.2%		
授 業 や 先 生 につ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	93.8%	4.9%	0.6%	0.6%	98.8%		
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	93.2%	5.6%	0.6%	0.6%	98.8%		
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	87.7%	8.0%	3.1%	1.2%	95.7%		
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	88.3%	4.9%	4.9%	1.9%	93.2%		
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	90.7%	5.6%	3.1%	0.6%	96.3%		
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	95.7%	3.1%	0.6%	0.6%	98.8%		
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	90.7%	5.6%	1.9%	1.9%	96.3%		

〈授業評価を受けて〉

(取組) ①担当者（令和4年度は3人）間で密な連携を図り、生徒の情報共有や授業進度等の打ち合わせを重ね、担当者によって差が出ない生徒にとって興味関心が湧く授業を実践した。

②Google Classroomを活用して週末課題（基本的に毎週）や長期休業中（夏・冬・春）の課題を指示し、学力の定着を図った。

③生徒にとって数学をより身近に感じられ、取り組みやすくできるよう1, 2学期は習熟度別、3学期は進路別のクラス編成を実施した。

(成果) 集計結果にも表れているように、多くの生徒が積極的に数学に取り組んでくれたように思う。

(課題) 進路に数学が必要なくなってしまう等で数学に興味関心が薄くなってしまった生徒に対する授業への適切なフォロー等の仕方。

(改善策) ①生徒への粘り強い声掛けや積極的な補習・講習の実施等積極的に行っていく。

②生徒への声（授業での疑問点・進路相談等）に積極的に耳を傾ける。

3年 (67期) ≪ 2022授業評価 ≫							
科目名		数学Ⅲ					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や う や そ う 思 う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	73.3%	18.3%	6.7%	1.7%	91.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	81.7%	13.3%	5.0%	0.0%	95.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	86.7%	8.3%	5.0%	0.0%	95.0%
授 業 や 先 生 に つ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	90.0%	8.3%	1.7%	0.0%	98.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.7%	5.0%	0.0%	3.3%	96.7%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	91.7%	5.0%	3.3%	0.0%	96.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	90.0%	6.7%	3.3%	0.0%	96.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	98.3%	1.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	86.7%	10.0%	3.3%	0.0%	96.7%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

- ・生徒の習熟度に合わせ授業展開を行うよう心掛けた。
- ・昨年度の休講に伴う授業進度の遅れを取り戻すために、カリキュラムを見直しできる限り早く入試演習を行うことができるように工夫した。

(成果)

- ・全体の95%の生徒が、授業内容を理解し主体的に授業に参加している。習熟度に合わせた授業展開ができたと考えられる。
- ・授業進度については、10月中旬には入試演習に入ることができた。

(課題)

- ・生徒の学力差が大きいと、さらに個々の理解度を確認し学習内容や教材に利用について検討する必要がある。

(改善策)

- ・定期試験や課題、授業内テストで生徒の理解度を把握し、教材研究を深めていく必要がある。

2年(68期) <<2022授業評価>>							
科目名 化学基礎							
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ 思 ま わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	56.4%	35.5%	7.3%	0.9%	91.8%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	81.8%	17.3%	0.9%	0.0%	99.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	70.0%	19.1%	10.9%	0.0%	89.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	90.0%	9.1%	0.0%	0.9%	99.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	96.4%	2.7%	0.9%	0.0%	99.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	94.5%	3.6%	1.8%	0.0%	98.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	97.3%	1.8%	0.0%	0.9%	99.1%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	98.2%	0.9%	0.9%	0.0%	99.1%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	92.7%	6.4%	0.9%	0.0%	99.1%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

分野ごとにまとめた冊子を用意し、基礎・基本の定着を図るとともに、演習を通して生徒の理解度を確認しながら授業展開に努めた。また、座学だけではなく実験を通して身につけた知識を視覚的にとらえることができるよう、授業計画を工夫した。生徒どうしの話し合いや意見交換の時間を増やすことで、生徒自身が主体的に取り組む環境づくりに取り組んだ。

(成果)

全体的な結果から、授業の教材などを通して授業内容がおおかた理解できていると考えられる。引き続き教材の改善を重ねながら活用していきたい。

(課題)

No.3の項目において、他の項目よりも結果が低かった。生徒が主体的に取り組むことができる時間の確保や、生徒が理解するための説明が十分にできなかったのではないかと考えられる。

(改善策)

主体的に取り組むことができるようになるためには、それぞれの分野において理解を深めることが大切であると考えられる。1年間を振り返り、生徒が理解しにくかった分野において、教材の見直しや説明の仕方、場合によっては視覚的に理解することができる工夫をする。

2年（68期）≪2022授業評価≫							
科目名		化学					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ 思 ま わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う や そ う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	59.8%	32.2%	6.9%	1.1%	92.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	67.8%	16.1%	14.9%	1.1%	83.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	83.9%	12.6%	3.4%	0.0%	96.6%
授 業 や 先 生 に つ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	94.3%	5.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	96.6%	2.3%	1.1%	0.0%	98.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	94.3%	3.4%	2.3%	0.0%	97.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	94.3%	4.6%	0.0%	1.1%	98.9%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	95.4%	4.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	90.8%	5.7%	3.4%	0.0%	96.6%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

分野ごとにまとめた冊子を用意し、基礎・基本の定着を図るとともに、演習を通して生徒の理解度を確認しながら授業展開に努めた。また、欠席者に向けて授業内容やポイントを送ることで、進度の遅れの不安がなくなるようなサポートを行った。

（成果）

全体的な結果から、授業の教材の活用は良好であったと考えられ、その結果授業内容の理解につながっていると考えられる。引き続き教材の改善を重ねながら活用していきたい。

（課題）

化学基礎と比べ主体的に取り組んでいる生徒が多かったが、理解度に関しては化学基礎よりも低い結果となってしまった。内容が難しくなっていることもあるが、改善が必要であると考えられる。

（改善策）

問題演習の時間を十分に確保し、互いに考えを共有しながら理解度を深めることができる授業展開を考える。授業内容を確認するための問題演習を後日に定期的に行うなどして、継続的な知識の定着に努める。

2年（68期）《2022授業評価》							
科目名		地学基礎					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う や そ う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	51.0%	32.7%	12.2%	4.1%	83.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	67.3%	30.6%	2.0%	0.0%	98.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	89.8%	8.2%	2.0%	0.0%	98.0%
授 業 や 先 生 につ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	89.8%	4.1%	6.1%	0.0%	93.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	83.7%	12.2%	2.0%	2.0%	95.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	89.8%	10.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	91.8%	8.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	98.0%	0.0%	2.0%	0.0%	98.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	98.0%	0.0%	2.0%	0.0%	98.0%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

分野ごとの要点をまとめた全クラス共通の冊子を用意し、基礎・基本の定着を図るとともに、クラスごとの進捗を確認しながら授業を実施した。加えて、生徒同士の話し合いや意見交換の時間を増やすことで、生徒自身が主体的に、また、積極的に授業に取り組むよう促した。

（成果）

No.23の項目における好意的な評価から、生徒同士の話し合いや意見交換の時間を増やしたことで、生徒自身が主体的に、また、積極的に授業に取り組むことができたと考えられる。

（課題）

No.1の項目における「そう思う／ややそう思う」の割合が相対的に見て低い結果となり、生徒の自宅学習への動機付けが課題である。

（改善策）

地学基礎を選択する生徒の多くは文系志望であり、理科という教科に対する動機付けは難しい。実験や実習だけでなく、現在進行中の環境問題や宇宙探査など、タイムリーな話題の紹介などを通して授業に意欲的に取り組む姿勢を身につけさせる。

2年 (68期) ≪2022授業評価≫							
科目名		物理					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	61.3%	25.3%	10.7%	2.7%	86.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	66.7%	22.7%	10.7%	0.0%	89.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	62.7%	22.7%	10.7%	4.0%	85.3%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	84.0%	8.0%	5.3%	2.7%	92.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	82.7%	9.3%	4.0%	4.0%	92.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	74.7%	13.3%	6.7%	5.3%	88.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	72.0%	13.3%	9.3%	5.3%	85.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	78.7%	10.7%	4.0%	6.7%	89.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	77.3%	13.3%	4.0%	5.3%	90.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	72.0%	9.3%	13.3%	5.3%	81.3%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

授業の探究活動や Classroom、Google meet によるオンライン授業を活用して基礎的な知識・技能の定着を図り、思考・判断・表現力を身に付けさせるように努めた。Classroom による補習の動画を配信して、演習や深い学びができるようにした。主体的に実験の課題を発見して考察し、発展的・対話的に実験と課題解決に取り組む活動を通して、学習への意欲を高めるように努めた。

(成果)

定期テストでは知識・技能、思考・判断・表現力の向上が見られた。多くの生徒が主体的に実験と課題解決に取り組み、さらに一部の生徒が発展的に課題を探究する実験を行い、学習に意欲的に取り組む姿勢が見られた。

(課題)

項目 No.1 にあるように、生徒によって予習復習、演習問題などの主体的な取り組みが、不足している生徒が見られ、理解度に差が生じた。

(改善策)

プロジェクトを活用して、身近な実験の紹介、動画やアプリの活用を通して関心を高め、学習意欲を高めるように努める。Classroom や Google meet を利用して家庭学習をサポートする。

2年 (68期) ≪2022授業評価≫							
科目名		生物					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	84.6%	15.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%	100.0%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	92.3%	0.0%	7.7%	0.0%	92.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

プリントごとにパワーポイントでスライドを作成し、視覚的に物事をとらえるとともに板書にかける時間を説明にかけることができるようにした。また、クラスルームに資料を上げ、復習や欠席者が自主的に学習できる環境づくりに努めた。

(成果)

全体的な結果から、令和4年度の取り組みは良好であったと考えられる。

(課題)

No.4の年間計画の周知が十分でなかったこと、教材を作成する時間に多くの時間があることが課題であると考えられる。また、来年度は単位数の変更(2単位から3単位)や新課程の授業内容への対応が必要である。

(改善策)

令和5年度の、年間の授業日数をもとに大まかな計画を立てて生徒へ周知する。また、旧課程と新課程の変更点などを理科教員で確認しながら、新課程に対応した授業づくりを行う。

3年 (67期) ≪2022授業評価≫							
科目名		物理					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や う や そ う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	86.0%	6.0%	4.0%	4.0%	92.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	84.0%	10.0%	6.0%	0.0%	94.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	80.0%	10.0%	4.0%	6.0%	90.0%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	94.0%	4.0%	2.0%	0.0%	98.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	88.0%	6.0%	6.0%	0.0%	94.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	90.0%	8.0%	2.0%	0.0%	98.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	88.0%	8.0%	4.0%	0.0%	96.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	88.0%	6.0%	6.0%	0.0%	94.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	96.0%	4.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

学習の進度を上げるためにプロジェクトを活用しながら授業展開したり、学習内容をまとめた教材を毎時間後に Google Classroom にアップするなどして授業の効率化を図り、習熟度の異なる学習集団に様々なアプローチから支援することを心掛けた。

(成果)

No.10 の項目において好意的な評価が多いことから、学習内容に一定以上の理解が深まったと考えられる。引き続き学習内容の精選や学習方法を研究していきたい。

(課題)

No.5,8 の項目において他の項目よりも評価が低い。学習進度を上げることを意識しすぎて、少し単調な授業展開になることが多かったことが原因として考えられる。

(改善策)

令和5年度以降は、机間指導や生徒の能動的な学習の機会を多く設けることを意識し、メリハリをつけた授業を展開する。

3年（67期）《2022授業評価》									
科目名		化学							
項目	No	質 問			そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り な そ	な い そ う 思 わ	思 や そ う や そ う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。			86.2%	8.6%	3.4%	1.7%	94.8%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。			82.8%	12.1%	5.2%	0.0%	94.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。			91.4%	6.9%	1.7%	0.0%	98.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。			96.6%	3.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。			96.6%	3.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。			94.8%	5.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。			98.3%	1.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。			96.6%	3.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。			98.3%	1.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。			94.8%	5.2%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

分野ごとに要点をまとめた冊子を用意し、基礎・基本の定着を図るとともに、定期的に発展問題（入試レベル）に取り組み、知識理解と活用について確認しながら授業を実施した。また、実験や映像により、五感で理解する機会を取り入れた。

（成果）

No. 4～10の項目における好意的な評価から、生徒自身が学習する内容の意義を主体的に捉え、積極的に授業に取り組むことにより、一定以上の学習内容の理解につなげることができたと考えられる。引き続き効果的なサポート方法を探りたい。

（課題）

No. 1～2の項目における「そう思う／ややそう思う」の割合が相対的に見て低い結果となり、知識の定着とそのために必要な自宅学習への動機付けが課題と考えられる。

（改善策）

基礎・基本の定着に向けた取り組みとして、授業内容に対応した副教材の問題番号を授業の最後に共有することで自宅学習への意欲・興味につなげたい。また、発展的・実践的な定着に向けて、該当分野が出題されやすい大学名や学部などを情報提供して、より一層の学力向上を目指す。

1年（69期）		≪2022授業評価≫					
科目名		物理基礎					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ 思 ま わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	40.3%	31.3%	22.4%	6.0%	71.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	60.4%	26.1%	11.2%	2.2%	86.6%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	68.7%	23.9%	5.2%	2.2%	92.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	77.6%	15.7%	4.5%	2.2%	93.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	82.1%	11.2%	3.7%	3.0%	93.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	79.1%	14.2%	5.2%	1.5%	93.3%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	74.6%	16.4%	7.5%	1.5%	91.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	86.6%	6.7%	2.2%	4.5%	93.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	89.6%	8.2%	0.0%	2.2%	97.8%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	71.6%	18.7%	6.7%	3.0%	90.3%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

主体的に実験の課題を発見して考察し、発展的・対話的に実験と課題解決に取り組む活動を通して、主体的に学習に取り組む態度の育成を図った。授業の探究活動や Classroom を活用して基礎的な知識・技能の定着を図り、思考・判断・表現力を身に付けさせるように努めた。Google meet によるオンライン授業、Classroom による補習の動画配信を展開して深い学びができるようにした。

（成果）

ほぼ全員の生徒が、主体的に実験と課題解決に取り組み、半数近い生徒が発展的に課題を探究する実験を行い、学習に意欲的に取り組む姿勢が見られ、レポート、発表等で成果を評価できた。定期テストでは知識・技能、思考・判断・表現の向上が見られた。

（課題）

項目 No.1 にあるように、家庭学習において主体的な予習・復習、演習の取り組みが十分ではなく、学習意欲に乏しい生徒が見られた。

（改善策）

プロジェクタを活用して、動画やアプリ、身近な実験を通して関心を高め、学習意欲を高めるように努める。Classroom や Google meet を活用して家庭学習をサポートする。

1年 (69期) <<2022授業評価>>							
科目名		生物基礎					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	49.3%	27.6%	18.7%	4.5%	76.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	64.2%	29.1%	6.0%	0.7%	93.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	76.1%	16.4%	6.0%	1.5%	92.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	77.6%	14.2%	5.2%	3.0%	91.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	89.6%	6.7%	3.0%	0.7%	96.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	86.6%	11.2%	0.7%	1.5%	97.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	87.3%	9.7%	2.2%	0.7%	97.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	90.3%	5.2%	2.2%	2.2%	95.5%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	93.3%	5.2%	0.0%	1.5%	98.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	81.3%	11.9%	6.0%	0.7%	93.3%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

複数の教員で各クラスを指導する上で、共通のプリントを用意し、進度や内容を随時確認し合いながら年間計画に従い授業を実施した。また、資料の提示は掲示板や Class room を活用し、補習の際は Google meet を活用した。

(成果)

授業評価の結果から、取り組みは概ね良好であったと考えられる。クラスごとに授業内容の差が少なくなるように取り組むことができた。また、評価の観点も事前に相談し、生徒にも示したことから、項目 No.9 においても高い評価を受けることができた。

(課題)

項目 No.1 において、意欲的に学習に取り組んでいる生徒の割合が他の項目に比べて低い傾向が見られた。これは、宿題などはあまり出さないことから、予習復習をあまり行っていないと考えられる。

(改善策)

復習を中心とした学習方法を具体的に示すと同時に、実習や演習を通して、知識の定着と思考力をより高めさせる活動を充実させていく。

1年(69期) ≪2022授業評価≫							
科目名		体育					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い 思 わ い う 思 わ	思 や そ う 思 う 思 う う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	51.5%	21.6%	15.7%	11.2%	73.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	75.4%	14.2%	8.2%	2.2%	89.6%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	82.8%	11.2%	4.5%	1.5%	94.0%
授 業 や 先 生 に つ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	94.8%	3.7%	0.0%	1.5%	98.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	92.5%	6.0%	0.0%	1.5%	98.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	94.0%	4.5%	0.0%	1.5%	98.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	81.3%	12.7%	5.2%	0.7%	94.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	91.8%	3.0%	3.7%	1.5%	94.8%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	89.6%	6.7%	2.2%	1.5%	96.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	91.0%	5.2%	2.2%	1.5%	96.3%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

新学習指導要領へ移行し、令和3年度まで研究してきた内容を鑑み、学習ノートを改良して取り組んだ。

(成果)

生徒に、年間計画や種目の特性を説明し、各自に選択させた。選択したそれぞれの種目の特性、授業の目的をしっかりと理解して取り組み、安全な活動を実施することができた。

(課題)

項目1・項目2が課題。

学校評価とは別問題だが、体育施設の老朽化による危険性の排除が課題。

(改善策)

今後も、「ノート」を改善し、生徒の理解の補助となるような内容にしていきたい。また、プリントやホワイトボードをもっと有効活用し、生徒がより理解しやすくなるような授業改善を図っていきたい。また令和5年度から chromebook が配布されるので技術の習得などで活用していけるように活用方法を模索していく。

コロナ下での体育活動を安全に、安心して活動できるように、横浜市の基準を実践しながら体育活動を実践していきたい。

授業の中で、いつでも、どこでも質問できる雰囲気づくりを工夫する。

1年(69期) ≪2022授業評価≫							
科目名		保健					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い う 思 わ	思 や う や そ う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	40.3%	23.9%	23.9%	11.9%	64.2%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	65.7%	25.4%	6.7%	2.2%	91.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	73.9%	20.9%	2.2%	3.0%	94.8%
授 業 や 先 生 につ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	81.3%	13.4%	3.7%	1.5%	94.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	89.6%	6.0%	3.7%	0.7%	95.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	90.3%	7.5%	0.7%	1.5%	97.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	88.1%	6.7%	3.0%	2.2%	94.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	90.3%	6.7%	1.5%	1.5%	97.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	90.3%	6.7%	1.5%	1.5%	97.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	85.8%	9.0%	3.0%	2.2%	94.8%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

新学習指導要領へ移行し、新たな項目について、市保体研・保健研究部と共同で授業内容の研究に取り組んだ。

(成果)

学年の教科担当者全員で、新たな項目も含め、授業実践の内容に関して話し合い、研究しながら実施することができた。

(課題)

項目1が課題。

(改善策)

プリントや教材の使い方をさらに研究し、生徒がより深く理解できるように改善していきたい。さらに、発問も授業理解につながっていくようなものに改善する。

来年度からChromebookの配布やプロジェクタが設置させるのでわかりやすい授業、自主的に取り組める授業を更に模索、実践する。

2年 (68期) ≪2022授業評価≫							
科目名		体育					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	61.7%	21.0%	9.9%	7.4%	82.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	77.8%	13.6%	8.0%	0.6%	91.4%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	85.2%	9.9%	3.7%	1.2%	95.1%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	96.9%	1.2%	1.2%	0.6%	98.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	91.4%	6.2%	1.9%	0.6%	97.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	93.8%	3.7%	1.2%	1.2%	97.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	82.7%	11.1%	3.7%	2.5%	93.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	87.7%	5.6%	4.3%	2.5%	93.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	85.8%	9.3%	2.5%	2.5%	95.1%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	88.3%	8.0%	1.9%	1.9%	96.3%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

生涯体育を目指し、自ら種目を選択し、主体的自主的に授業に参加、また、一人一人が授業をつくる意識を持つよう取り組んだ。

(成果)

選択した種目の仲間と共に、コミュニケーションを取りながら学び合う姿が多く見られた。

(課題)

特に、⑧公平性や安心、⑨評価、⑩説明の分かりやすさが課題であり、改善する必要がある。

(改善策)

科内での共通認識をもち、生徒一人一人に向き合い、教材研究を深める。また、chromebookを活用したノートづくりや授業づくりについて考える。

また、いつでも質問しやすい雰囲気づくりにも取り組む。

2年 (68期) ≪2022授業評価≫							
科目名		保健					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ ない	思 や う や そ う 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	51.9%	27.2%	13.0%	8.0%	79.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	72.8%	24.1%	1.9%	1.2%	96.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	84.0%	11.1%	4.3%	0.6%	95.1%
授 業 や 先 生 に つ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	90.7%	6.2%	1.2%	1.9%	96.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	95.1%	3.1%	0.6%	1.2%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	93.2%	4.3%	0.6%	1.9%	97.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	92.6%	4.3%	1.9%	1.2%	96.9%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	91.4%	6.2%	1.9%	0.6%	97.5%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	93.8%	4.3%	1.2%	0.6%	98.1%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	93.8%	4.9%	0.6%	0.6%	98.8%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

自分の将来設計についてや、健康に過ごすためにどのように行動していくかなど自分の考えを伝えたり、人の考えを聞いたりしながら意見交換の時間を多くした。また、グループ活動ではテーマに沿ったCM作りを行った。

(成果)

ペアワークやグループ活動では協力し、意欲的に取り組む姿勢が見られた。授業も楽しそうに受けている印象である。

(課題)

①は予習や復習をしていないというところで評価が低いと感じる。

(改善策)

自分の将来を見据えて、学んだことを行動に起こせるような投げかけをしていくことが必要と感じる。

3年 (67期) ≪ 2022授業評価 ≫							
科目名		体育					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や う や そ う 思 う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	74.5%	9.9%	10.6%	5.0%	84.4%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	81.6%	12.8%	3.5%	2.1%	94.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	88.7%	7.8%	1.4%	2.1%	96.5%
授 業 や 先 生 につ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	96.5%	2.1%	0.0%	1.4%	98.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	90.1%	6.4%	2.1%	1.4%	96.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	90.8%	6.4%	1.4%	1.4%	97.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	85.8%	8.5%	1.4%	4.3%	94.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	85.8%	9.2%	4.3%	0.7%	95.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	86.5%	5.7%	2.1%	5.7%	92.2%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	90.1%	5.0%	5.0%	0.0%	95.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

生徒が主体となって積極的な活動を行い、全員が楽しめること、生涯体育につなげることを意識させ取り組んだ。

(成果)

体育の活動を楽しみ、協力して授業を行う姿が見られた。主体的、積極的な活動が多く見られた。

(課題)

特に項目⑦、⑨に関しての数値が低いことが課題である。

(改善策)

生徒の授業理解や技能向上、より積極的な活動になるよう、ICT 機器を活用できるよう模索していく。

評価について、学習カードの読み取りや教員間で生徒理解を深め、改善する。

1年（69期）		《2022授業評価》						
科目名		芸術 I						
項目	No	質 問		そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う 思 う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。		52.2%	21.6%	17.2%	9.0%	73.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。		80.6%	13.4%	4.5%	1.5%	94.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。		90.3%	7.5%	0.7%	1.5%	97.8%
授 業 や 先 生 につ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。		87.3%	10.4%	0.7%	1.5%	97.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。		91.8%	6.7%	0.0%	1.5%	98.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。		92.5%	5.2%	0.7%	1.5%	97.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。		90.3%	6.0%	1.5%	2.2%	96.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。		98.5%	0.0%	0.0%	1.5%	98.5%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。		94.0%	4.5%	0.0%	1.5%	98.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。		91.0%	6.0%	0.7%	2.2%	97.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

新学習指導要領の実施に伴い年間学習計画を周知し、授業のねらいや観点別評価の基準を丁寧に説明した。また、単元の終わりに評価の基準を再確認できるようにした。

(成果)

学習内容と評価の基準を観点別に示したことで、殆どの生徒が理解していると判断できる。

(課題)

学習内容と観点別評価を生徒全員が理解すること、また生徒たちの芸術への関心意欲を高め、主体的・積極的に授業に参加する内容に努める必要がある。

(改善策)

授業内容を精選し、生徒が関心を持って意欲的に取り組めるような授業を計画する。また、授業の中での生徒たちとの信頼関係を築くことが大切な為、良い関わりを保ちながら指導にあたるよう教え方についての研鑽を引き続き行っていく。

1年(69期) <<2022授業評価>>							
科目名		英語コミュニケーション I					
項目	No	質 問	そう 思う	思 や う や そう	い う あ 思 ま わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	55.2%	29.9%	9.7%	5.2%	85.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	59.7%	27.6%	9.7%	3.0%	87.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	81.3%	12.7%	3.7%	2.2%	94.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	94.0%	4.5%	0.0%	1.5%	98.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	92.5%	5.2%	0.7%	1.5%	97.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	91.0%	4.5%	3.0%	1.5%	95.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	87.3%	8.2%	3.0%	1.5%	95.5%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	97.0%	1.5%	0.0%	1.5%	98.5%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	95.5%	3.0%	0.0%	1.5%	98.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	91.0%	6.7%	1.5%	0.7%	97.8%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

帯活動の時間、教科書の時間と分けるような形で授業展開した。帯活動の時間では、速読教材を用いて英文を早く正確に読む練習をした。また、難易度が高めな海外のニュースを扱うリスニング教材を使い、実生活で話されているスピードの英語に慣れる練習や情報を聞き取る練習をした。既習教材をもとに作成した単語テストも行い、基礎的な知識の定着を目指した。

教科書を扱う際には、リスニングやリーディングを通した内容理解(インプット)、次にその内容を自分の表現として習得する練習(インテイク)、最後には身に付けた表現を用いて自分の意見を発信するライティングやスピーキングの活動(アウトプット)を含む3段階構成でカリキュラムを作成し、同じレッスンを別の視点から何度も別の方法で取り組むラウンド制の授業を展開した。いずれの段階でもテキストの英文を丸ごと通して学習することを意識し、リスニング・リーディング共に、量に耐えられる力がつくよう取り組んだ。

(成果)

ほとんどの生徒が授業を肯定的に捉えており、主体的に授業に参加している。結果、帯活動や授業それぞれの段階でこちらが身に付けてほしいと考えていた能力が生徒に身についたことを、テストの結果や振り返りなどから見取ることができた。特にリスニング力や概要を把握する力、読み取った内容を自身の言葉で英語を用いて伝える力などが向上した。

(課題)

授業で学習した内容の理解と定着のための練習量が足りないこと、また、文法の取り扱いを本科目内でどのようにしていくかが課題である。

(改善策)

練習量については授業内の活動の見直しを図るとともに、家庭学習でも取り組めるような仕掛けを作ることが必要である。ICT機器を活用し、音読音声提出させることや、その精度を確認するなどの取り組みが考えられる。文法については、論理表現の授業で、本科目で出てきた表現を扱い解説することや、論理表現で学習した文法事項を確認するなど「英語」の授業全体としてカバーしていくことが求められる。

1年 (69期) ≪ 2022授業評価 ≫							
科目名		論理・表現 I					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や そ う や そ う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	57.5%	28.4%	9.7%	4.5%	85.8%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	53.7%	24.6%	17.9%	3.7%	78.4%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	79.1%	12.7%	6.7%	1.5%	91.8%
授 業 や 先 生 につ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	88.8%	7.5%	2.2%	1.5%	96.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	85.8%	9.0%	2.2%	3.0%	94.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	86.6%	8.2%	3.7%	1.5%	94.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	82.1%	9.7%	6.7%	1.5%	91.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	91.0%	6.0%	1.5%	1.5%	97.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	93.3%	5.2%	0.0%	1.5%	98.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	80.6%	10.4%	4.5%	4.5%	91.0%

〈授業評価を受けて〉
(取組)

HR 教室での活動は、文法中心の授業を実施した。中学校の基礎英文法を繰り返し行いながら、新しい文法を学んでいき、実生活で活用できる英語の習得を目指しながら、理解、演習、表現を繰り返し行った。単元ごとに知識・技能と思考・判断・表現を問うテストを行った。家庭での学習が定着できるように、振り返りシートや予習・復習の課題を課した。CALL 教室での活動は、AET と日本人教師のティームティーチングで、リスニング・スピーキング・ライティングの活動を主に行った。学期ごとにプロジェクトを設け、プレゼンテーションやライティングテストを実施した。習得した英文法を活用しながら、ロールプレイを通して実生活で活用できる英語の習得を目指した。

(成果)

文法の授業において、以前は苦手意識を持っている生徒が多くみられたが、文法や語彙力は徐々に向上しており、主体的かつ積極的に学ぶ生徒が増加した。また、CALL での言語活動を通して、リスニング力や既習文法を活用した実践的な表現力も向上した。

(課題)

文法の授業は週 1 回で行ったため、授業で学習した内容の理解とその定着が今後の課題である。

(改善策)

学んだことを実際の場面でイメージしながら活用することや、家庭学習で繰り返し学習し定着を図る支援が必要である。例えば、グーグルクラスルームを活用した文法演習や補足プリントの配布、個人振り返りシートでの指導・援助などを通して、担当者間で協力しながら進めることが求められる。

2年（68期）≪2022授業評価≫							
科目名		コミュニケーション英語					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う 思 う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	64.2%	29.0%	4.3%	2.5%	93.2%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	60.5%	27.8%	9.3%	2.5%	88.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	82.1%	14.8%	2.5%	0.6%	96.9%
授 業 や 先 生 に つ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	93.2%	5.6%	1.2%	0.0%	98.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	95.7%	4.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	92.0%	6.2%	1.2%	0.6%	98.1%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	88.3%	7.4%	3.7%	0.6%	95.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	95.1%	3.7%	0.6%	0.6%	98.8%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	95.7%	3.7%	0.6%	0.0%	99.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	93.2%	5.6%	1.2%	0.0%	98.8%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

ラウンド制（※教科書の内容を、年間を通じて何度も繰り返し学習する方法）を通して、聴いたり読んだりして理解した内容を、自分の言葉として話したり書いたりできるようになる授業展開を心がけてきた。また、速読教材を通して書かれている内容を速やかに理解するトレーニングを行った。さらに、多様なジャンルを含んだ難易度の高いリスニング教材を使用し、情報を正しく聴き取るためのトレーニングを行った。

（成果）

授業そのものについては、上記のような高評価を得ることができた。英語が得意な生徒だけでなく、英語に苦手意識がある生徒からも肯定的な評価が得られたのは、生徒間で扱っている英文の内容について話したり書いたりして伝え合うことによって、理解を深められたためであると考えられる。

（課題）

②授業内容の理解度・定着度については88.3%となっており、課題である。

（改善策）

使用している教科書の難易度が高いため、より深く理解するための学習活動の改善が必要である。

また、新教育課程を踏まえ、教科書が適切な難易度のものを使用しているかを改めて考え直す。さらに、内容理解の段階でより丁寧に時間をかけ、理解が詳細に至るよう、ラウンド制のスケジュールを見直す。

2年 (68期) << 2022授業評価 >>							
科目名		英語表現Ⅱ					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	67.3%	24.1%	6.2%	2.5%	91.4%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	66.7%	22.2%	8.0%	3.1%	88.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	85.2%	9.9%	3.7%	1.2%	95.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	93.8%	4.3%	1.2%	0.6%	98.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	93.8%	4.3%	1.9%	0.0%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	95.7%	3.7%	0.6%	0.0%	99.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	92.6%	5.6%	1.9%	0.0%	98.1%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	95.1%	3.1%	1.2%	0.6%	98.1%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	95.1%	3.1%	1.9%	0.0%	98.1%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	92.6%	4.9%	1.9%	0.6%	97.5%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

1 クラスを2分割し、20人で授業を行う少人数制を展開している。CALL教室での活動は、AETと日本人教師のティームティーチングで進めた。リスニング活動、ペアやグループによるディベートやプレゼンテーション等のスピーキング活動を行い、さまざまなトピックに対し、意欲的に英語を使って自己表現することができる力の向上を目指した。HR教室では、英文法中心の授業を行った。家庭学習を前提とし、不明な点を授業内で解決し、小テストを毎時間行うことで自立学習を促した。

(成果)

授業そのものについては、上記のような高評価を得ることができた。英語が得意な生徒だけでなく、英語に苦手意識がある生徒からも肯定的な評価が得られたのは、少人数制によって一人一人の疑問点に対して丁寧に説明を行う時間が確保できたことと、各生徒のスピーキング活動に耳を傾け、より適切な表現方法について個別に指導を進められたことが要因であると考える。

(課題)

①予習復習の学習習慣は91.4%であり、また②授業内容の理解度・定着度は88.9%と他の数値よりも低く、課題である。

(改善策)

予習を前提とした学習は、ある程度の知識が生徒に備わっていないと成立しないため、苦手意識がある生徒にとっては学習意欲がそがれてしまう可能性がある。そのため、予習に必要な知識の定着や、それに向けた問題演習を事前に行う等、授業展開を見直す。

3年 (67期) <<2022授業評価>>							
科目名		コミュニケーション英語Ⅲ α					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や そ う や そ う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	70.6%	14.7%	5.9%	8.8%	85.3%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	76.5%	11.8%	5.9%	5.9%	88.2%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	85.3%	11.8%	2.9%	0.0%	97.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	94.1%	5.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	94.1%	2.9%	2.9%	0.0%	97.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	85.3%	11.8%	2.9%	0.0%	97.1%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	94.1%	2.9%	2.9%	0.0%	97.1%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	88.2%	8.8%	2.9%	0.0%	97.1%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	94.1%	5.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	94.1%	5.9%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組) 令和4年度当初に「豊富な語彙の定着」「正確かつ素早い Reading・Listening の向上」「自らの考えを伝える Writing・Speaking の向上」が本科目の学びの軸であることを提示し、年間を通じて上記の目標に向かって学習するように動機づけた。語彙の定着のために、週1回の単語テストを設け、高校2年生までに扱った教科書から様々なアプローチで語彙の定着を確認した。生徒には発信語彙と受信語彙を意識させ、自ら積極的に用いてほしい語彙と意味が分かればよい語彙を区別し、アウトプット活動に応用できるように工夫した。正確かつ素早い Reading と Listening 能力の向上のために、時間を意識した読解活動と重要な構文に的を絞った緻密な英文解釈を年間を通じて授業内でおこなった。Listening 能力向上のために、常日頃から音読活動にも取り組んだ。自らの考えを伝える Writing と Speaking 能力の向上のために、年間を通じて様々な形式の Writing 課題に取り組んだ。αクラスは英語に苦手意識を持っている生徒が多いため、英語独特の論理展開について、ミスをしがちな文法項目について十分な時間を割いて説明し、スモールステップを踏みながらアウトプット活動につなげた。

(成果) 単語習得に意識を向かせることで、自ら他の教材を手にとって単語学習を始める生徒が増えた。読解速度も演習を重ねる中で、ディスコースマーカーを意識して重要な記述と補足的な記述とで判別し、より素早い内容理解のための力を身につけた。Writing 課題に何回も取り組むことで、自ら自信を持ってアウトプットできる表現が増え、減点対象の記述が回を重ねるごとに減っていった。

(課題) Listening・Speaking の能力に関しては、十分な学習を確保することができなかった。Listening は共通テスト形式のリスニング演習のみであった。Reading や Writing の時間を確保することで Speaking の学習機会も追いやられてしまった。それゆえに評価項目6と7において課題が残る結果となったと考える。

(改善策) Listening に関しては、生徒の興味関心に基づいたよりオーセンティックな教材を用いた Listening 活動を実施する。Speaking に関しては、Writing や Reading の活動に織り交ぜながら、日頃から短時間であっても取り組んでいき、モチベーションを維持できるようにする。来年度の授業計画検討の際には、4技能5領域のバランスをより重視したものに

なるよう検討を進める。

3年 (67期) <<2022授業評価>>							
科目名		コミュニケーション英語Ⅲβ					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ 思 ま わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う や う そ う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	79.4%	6.5%	8.4%	5.6%	86.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	86.0%	6.5%	6.5%	0.9%	92.5%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	79.4%	9.3%	6.5%	4.7%	88.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	76.6%	8.4%	8.4%	6.5%	85.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	87.9%	5.6%	1.9%	4.7%	93.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	77.6%	5.6%	9.3%	7.5%	83.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	73.8%	6.5%	11.2%	8.4%	80.4%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	86.0%	5.6%	3.7%	4.7%	91.6%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	88.8%	4.7%	0.0%	6.5%	93.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	76.6%	11.2%	4.7%	7.5%	87.9%

〈授業評価を受けて〉

(取組) 情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝える能力をさらに伸ばすことと、長文を読む際には内容にも興味・関心を持つことを大切にしながら学習を進めた。夏休み前までは教科書にディスコーススキルを意識してより早く正確に内容を理解する練習をし、夏休み以降は共通テスト対策問題の演習と二次試験長文読解演習を中心に行った。読む長文の内容によってはトピックについて生徒同士で話し合ったり、自分の考えを記述して表現したりする機会を積極的に設けるようにした。また、英語力の基礎となる語彙力を強化するために、これまで使用した教材に基づく単語テストを年間を通じて実施し、同時に二次試験のリスニング対策教材に継続的に取り組んだ。自分の意見を明確かつ論理的に表現することを目標に、ライティングを2回実施した。

(成果) ディスコーススキルを学んだ上で様々な英文に触れたことで、生徒が英文を読むことに慣れ、精度を維持しつつ読むスピードを上げることができた。2学期期末試験は共通テストと同程度の処理速度が求められる英文量だったが、対応できている生徒が多かった。

(課題) 授業評価の結果を見ると4と7に特に課題がある。使用教材が多くそれぞれの使用目的や使用方法についての指示が煩雑になり生徒を混乱させてしまったことが考えられる。また、上記に加え10の発問や説明を明確にすることにより、1の意欲的な取り組みも改善することができると思う。

(改善策) 3年生はこれまでの学習形態から大きく変わるため、テスト返却などの機会を利用し定期的にこれからの授業の見通しについて生徒との共通理解を図る。また、自分の考えを伝える際に英語ではなく日本語に頼ってしまうなど、目的からそれてしまっていた場面もあるため、日々の授業においても活動を行う際はその意図を明確にする。

3年（67期）		≪2022授業評価≫						
科目名		英語表現Ⅱα						
項目	No	質 問		そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や う や そ う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。		77.5%	12.5%	5.0%	5.0%	90.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。		75.0%	12.5%	7.5%	5.0%	87.5%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。		80.0%	10.0%	5.0%	5.0%	90.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。		90.0%	7.5%	2.5%	0.0%	97.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。		97.5%	2.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。		90.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。		85.0%	10.0%	5.0%	0.0%	95.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。		95.0%	2.5%	2.5%	0.0%	97.5%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。		92.5%	5.0%	2.5%	0.0%	97.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。		90.0%	5.0%	5.0%	0.0%	95.0%

〈授業評価を受けて〉

（取組）2年生までに学習した英語の知識を活用できるようになることを目標に、英作文の演習に取り組んだ。課題文が長くても、まずは中心となる主語と動詞を置いてから修飾部をつなげていくこと、日本語を直訳するのが難しい場合は自分が訳せる日本語に変換することなど、英作文をする際の考え方を示し、100%ではなくても70%以上は伝える、ということ意識してもらったようにした。並行して、英文法語法演習問題集を使用したり、英作文をする際にポイントとなる表現に焦点を当てたりして、既習事項の復習を行った。主となる使用書が生徒にとって難易度の高いものであったため、扱う表現は同じでも難易度を下げた問題集に事前に取り組み、段階を踏んで英作文に取り組めるようにした。試験は授業で扱った内容を中心に、授業と予習・復習での努力が結果として見えるように作成した。

（成果）普段の演習の様子と定期試験の解答のどちらにおいても、回を重ねるごとに空欄が目立たなくなっていた生徒が多く、自分が持つ知識を使ってなんとか表現しようとする姿勢が見られた。また、小テストにおいても繰り返すごとに全体として正答率が上がり、文法事項の定着が見られた。

（課題）授業評価の結果から、授業内容の理解と定着に課題があることが分かった。使用書の難易度が高く、プロセスを理解することに時間を割いたため、それを他の問題に応用してみる時間が十分にとれなかったことが考えられる。また、生徒がさらに主体的に授業に参加できるよう工夫する必要がある。

（改善策）授業内で、演習を通して自分なりの問題へのアプローチの仕方を模索する時間や、表現について生徒同士で意見交換をする時間など、主体的に学習に取り組む機会を増やす。そのために、教員からの説明を過不足のない適切なものになるように事前に十分検討する。また、使用書を計画通り進めることに固執しすぎず、生徒の状況を見ながら取り組む問題を精選するなどの工夫をする必要がある。

3年 (67期) ≪ 2022授業評価 ≫							
科目名		英語表現Ⅱβ					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り 思 わ り な そ	な い そ う 思 わ	思 や そ う や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	79.2%	9.9%	7.9%	3.0%	89.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	80.2%	10.9%	7.9%	1.0%	91.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	90.1%	6.9%	2.0%	1.0%	97.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	93.1%	4.0%	2.0%	1.0%	97.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	93.1%	5.0%	2.0%	0.0%	98.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	97.0%	2.0%	1.0%	0.0%	99.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	93.1%	3.0%	4.0%	0.0%	96.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	92.1%	5.9%	1.0%	1.0%	98.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	96.0%	1.0%	1.0%	2.0%	97.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	96.0%	3.0%	0.0%	1.0%	99.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組) 令和4年度当初に、「豊かな英作文」「正確な英文解釈」「深い文法理解」という3つの学びの軸を提示し、学習に取り組むよう促した。豊かな英作文のための表現力を身につけるために、今年度は使用書の課題のみならず、教員が自作した各クラス共通のプリントを作成し、ターゲットの英作文表現を何度も練習できるよう工夫した。生徒は積極的に取り組み、演習量を増やすことで表現の定着を目指して努力している様子が見られた。さらに、英作文のみに取り組むのではなく、正確な英文解釈と深い文法理解の力を身につけるために、ターゲットの英作文表現に関連した難しい英文を精読する英文解釈の活動を取り入れた。これまでの高校2年間での英語学習で培った多くのインプットを英文解釈という活動を通して反芻し、より深い英文構造の理解を目指した。

(成果) 定期テストでは生徒に予告した上でできるだけ記述問題を多く設定し、回を重ねるごとに英作文のケアレスミスが少なくなった。英作文に苦手意識を持っていた生徒も自信を持ってアウトプットできる表現を身につけることで得点につながり、自信を持つようになった。英文解釈の活動では、英語の独特な表現や言い回しを日本語で理解・解答する際のコツや技能を身につけた生徒が多く、正確な英文解釈の力を身につけることができた。

(課題) 授業評価の「自分自身について」の項目によれば、予習復習に十分にに取り組むことができなかつた生徒が1割以上いることがわかった。また、週2時間という限られた時間では、十分な演習量を確保したり、より丁寧な解説、生徒同士の学び合いの時間を確保することが難しかった。

(改善策) 予習復習に多くの時間を割かずとも、授業内での演習を繰り返す中で定着を促すことが重要だと考える。「授業や先生について」の項目7によれば、更なる授業教材の改善の余地が見込まれるため、教科全体で検討していく。教師の一方的な講義形式による授業ではなく、生徒同士での学び合いの中で新たな発見をし、その発見の定着を目指した演習に取り組めるような授業にしていくことを目指し、来年度の本科目の授業計画検討を進める。

1年（69期）		≪2022授業評価≫						
科目名		情報 I						
項目	No	質 問		そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ ま り わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。		29.9%	27.6%	30.6%	11.9%	57.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。		39.6%	35.1%	16.4%	9.0%	74.6%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。		64.9%	23.9%	6.0%	5.2%	88.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。		81.3%	12.7%	1.5%	4.5%	94.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。		75.4%	14.9%	9.0%	0.7%	90.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。		75.4%	17.2%	6.0%	1.5%	92.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。		74.6%	13.4%	9.0%	3.0%	88.1%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。		61.9%	18.7%	11.9%	7.5%	80.6%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。		70.1%	20.1%	6.0%	3.7%	90.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。		56.7%	23.1%	15.7%	4.5%	79.9%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

新学習指導要領の実施にあたり、学習と評価の一体化を図るために、学習内容と観点別の評価基準を示し、学習目標を明確にした。

また、さまざまな状況においても、学習の保障と継続を図れるように、毎授業ごとにオンラインを活用した配信授業を展開した。

（成果）

学習すべき目標と内容が具体化されたことで、達成目標に対して学習の見通しを持ち、学習過程において見直しを行いながら、次の学びにつなげるための手立てとすることができた。

（課題）

生徒による授業評価によると、質問項目 8 および 10 については、他の項目と比較すると「そう思う」のポイントが低い。

学習環境の制約もあり、グループワークなど生徒自身の活動を通して主体的に学習に取り組む場面が少なかった。課題の設定や指導の方法などを検討する必要がある。

（改善策）

教科の育成すべき資質・能力を踏まえ、課題設定の改善を図ると同時に、生徒一人一人の学習の成果を的確に捉えながら指導の方法を見直し、生徒自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにする。

2年（68期）《2022授業評価》							
科目名		家庭基礎					
項目	No	質 問	そ う 思 う	思 や う や そ う	い う あ 思 ま わ り な そ	な そ う 思 わ	思 や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	53.1%	29.0%	9.3%	8.6%	82.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	67.9%	24.7%	6.8%	0.6%	92.6%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	80.2%	15.4%	3.1%	1.2%	95.7%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	96.3%	2.5%	1.2%	0.0%	98.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	95.7%	2.5%	1.9%	0.0%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	93.8%	4.9%	1.2%	0.0%	98.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	93.8%	5.6%	0.6%	0.0%	99.4%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	93.8%	4.3%	1.2%	0.6%	98.1%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	91.4%	5.6%	3.1%	0.0%	96.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	92.6%	6.2%	0.6%	0.6%	98.8%

〈授業評価を受けて〉

（取組）

日常生活と卒業後の自立に役立つ授業を目指し取り組んだ。
 コロナ感染などの予防に心がけつつ実習を徐々に再開した授業展開を行った。

（成果）

なるべく多くの体験を取り入れた授業展開をすることができたため、学習内容の理解・定着をはかることができ、生徒・教員とも満足感を感じられる授業となったのではないかと思われる。

また、日常生活や自分の一生の中での課題を意識し思考を深めるなどの、地域社会や自身の一生を見通した問題を見出したり、課題を解決する力が身についていると思われる。

（課題）

来年度へ向けて3観点の評価を明確にする方法を検討する。
 授業内でのクロムブックの活用法を検討する。

（改善策）

授業内容を精選し、また授業展開等を改善し、生徒が一層の関心を持って取り組めるようにしていく。

一人ひとりの生徒が、自身の今後の生活の自立に結び付けて様々な生活課題に取り組むことを意識する授業内容となるように工夫する。

全学年生徒による学校評価							
項目	No	評価指標	そう思う	やや思う	あまり思わない	そう思う	そう思う
教育活動等について	1	ホームルーム（学級）で良好な人間関係を築いている。	73.3%	20.2%	5.3%	1.3%	93.5%
	2	生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	57.1%	24.6%	12.0%	6.3%	81.7%
	3	先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	76.3%	18.3%	2.9%	2.5%	94.5%
	4	学校はいじめや差別を許させない環境作りに努めている。	68.7%	22.3%	6.5%	2.5%	91.0%
	5	学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	70.4%	20.6%	6.9%	2.1%	91.0%
	6	学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	62.4%	24.4%	9.5%	3.8%	86.8%
	7	「総合的な探究の時間」では、主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった。	64.1%	23.1%	8.0%	4.8%	87.2%
学校生活等について	8	本校の生徒であることに誇りを感じている。	68.3%	21.4%	6.7%	3.6%	89.7%
	9	学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	82.6%	13.0%	3.2%	1.3%	95.6%
	10	学校は生徒の個人情報適切に管理している。	85.7%	10.9%	1.5%	1.9%	96.6%
	11	災害時の校内の避難経路を把握している。	57.4%	23.5%	12.2%	6.9%	80.9%
	12	学校は学校ホームページや学年便り等を活用し、必要な情報を提供している。	67.2%	22.7%	7.4%	2.7%	89.9%
進路について	13	希望する進路のために必要な科目や、興味・関心を満たす科目が設定されている。	80.7%	13.9%	3.4%	2.1%	94.5%
	14	進路説明会等での進路に関する情報を十分に理解している。	78.4%	15.5%	4.4%	1.7%	93.9%

保護者による学校評価 全学年 南高等学校								
項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う・ややそう思う
教育活動等について	1	進学重点校として、模擬テストや面談の充実など適切な取り組みをしている。	46.6%	42.1%	7.7%	1.9%	1.6%	88.7%
	2	南高校・南附属中学校の教育課程は充実したものになっている。	37.0%	42.4%	14.1%	3.5%	2.9%	79.4%
	3	お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	60.5%	32.5%	3.5%	2.3%	1.3%	92.9%
	4	学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	48.6%	40.8%	6.4%	2.6%	1.6%	89.4%
	5	生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	31.5%	52.1%	9.3%	1.9%	5.1%	83.6%
学校生活等について	6	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	41.2%	45.0%	7.7%	2.9%	3.2%	86.2%
	7	校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	33.8%	47.6%	11.6%	1.0%	6.1%	81.4%
	8	各種会計報告が適切に行われている。	46.3%	46.3%	1.6%	0.3%	5.5%	92.6%
	9	学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	66.9%	27.7%	1.0%	0.0%	4.5%	94.5%
進路について	10	希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている。	32.8%	48.6%	15.8%	1.0%	1.9%	81.4%

令和4年度 地域による学校評価									
項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う・ややそう思う	令和3年度
教育活動	1	学校は地域の人材や施設を教育活動に活かしている。	9.4%	23.4%	17.2%	6.3%	43.8%	32.8%	27.1%
	2	学校は文化祭等の学校行事を通して、地域から信頼される学校を目指している。	21.9%	28.1%	14.1%	0.0%	35.9%	50.0%	47.9%
生徒の様子	3	学校生活が楽しそうで、生き生きとしている様子の生徒が多く見られる。	20.3%	31.3%	17.2%	0.0%	31.3%	51.6%	58.3%
	4	生徒は登下校の際のマナーが身に付いている。	17.2%	35.9%	28.1%	3.1%	15.6%	53.1%	58.3%
	5	生徒は近隣に迷惑にならないような行動を心がけている。	14.1%	34.4%	17.2%	3.1%	31.3%	48.4%	54.2%
地域貢献等	6	学校は地域の活動や行事によく協力している。	15.6%	17.2%	9.4%	12.5%	45.3%	32.8%	20.8%
	7	学校は校舎・グラウンド等の近隣に接している所も清掃し、環境美化に努めている。	14.1%	20.3%	4.7%	14.1%	46.9%	34.4%	35.4%
	8	生徒は社会貢献（地域清掃や地域のボランティア等の取組）の活動により地域に貢献している。	12.5%	21.9%	14.1%	4.7%	46.9%	34.4%	12.5%
	9	学校は地域に向けて学校情報の提供をしている。	9.4%	23.4%	18.8%	7.8%	40.6%	32.8%	31.3%

R4 教職員による学校評価 (様式1)				横浜市立南 高等学校								
No	大分類	評価項目	観点	評価指標	十分に実現できている	おおむね実現できている	あまり実現できていない	全く実現できていない	判断できない	十分に/おおむね実現できている	令和3年度	
1	教育活動	第3期横浜市教育振興基本計画		「魅力ある高校教育の推進」に向けて学校全体として取り組んでいる。	10	45	2	0	6	87.3%	90.3%	
2		教育課程	編成	学校教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。	10	46	2	0	5	88.9%	88.7%	
3			取組	学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、さらに中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指して編成し、取り組んでいる。	9	46	2	0	6	87.3%	87.1%	
4		教科指導	指導計画	学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している。	8	47	2	1	5	87.3%	90.3%	
5			取組	私の所属している教科は生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている。	16	37	2	0	8	84.1%	85.5%	
6			評価評定	観点別評価規準を明確にした年間計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている。	21	31	4	0	7	82.5%	71.0%	
7		特別活動 部活動	取組	生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している。	12	37	8	1	5	77.8%	80.6%	
8		ホームルーム活動	生徒が人間関係を円滑に結び、充実した学校生活を送ることができるよう基礎的な生活集団の形成に資するホームルーム経営を行うことができている。	15	31	1	1	15	73.0%	72.6%		
9		生徒指導	生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行っている。	13	40	5	1	4	84.1%	82.3%		
10		進路指導	生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切な指導を行っている。	16	39	1	1	6	87.3%	83.9%		
11		保健指導	学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している。	16	41	0	0	6	90.5%	90.3%		
12		環境美化	資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる。	15	38	8	0	2	84.1%	80.6%		
13	学校経営	学校教育目標		学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。	11	45	2	1	4	88.9%	79.0%	
14		学校経営方針		学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。	12	44	2	2	3	88.9%	80.6%	
15		職員組織 (校務分掌も含む)		一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である。	14	38	5	2	4	82.5%	80.6%	
16		学年経営		各学年(年次)の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行なわれている。	13	37	1	2	10	79.4%	75.8%	
17		職員会議等		会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。	11	38	6	3	5	77.8%	85.5%	
18		研究・研修		教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。	13	39	5	0	6	82.5%	75.8%	
19		学校経理	予算編成	予算委員会などの組織を設けて、予算が適切に立てられている。	15	42	0	1	5	90.5%	91.9%	
20			会計報告	公金、準公金ともに透明性が確保され、保護者や市民に対する説明責任を果たしている。	21	36	0	0	6	90.5%	96.8%	
21		学校施設 設備		教室、特別教室、体育施設等は学習や生活がしやすいように管理が適切になされている。	14	34	13	1	1	76.2%	79.0%	
22		情報管理		個人情報の管理が適切である。	19	38	2	0	4	90.5%	98.4%	
23		保護者・地域 等との連携 協力	PTA活動	PTAとの連携・協力の推進が図られている。	15	40	2	1	5	87.3%	87.1%	
24			地域等との 連携 協力	学校の教育活動の情報提供・説明が十分になされ、活動に対する理解が得られている。	11	39	7	1	5	79.4%	82.3%	
25	危機管理	安全対策	学校安全計画に沿って適正に実施されている。	14	42	4	0	3	88.9%	85.5%		
26		防災対策	学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている。	11	46	3	0	3	90.5%	90.3%		
27	情報公開		募集に関する学校説明会や学校情報に関する広報活動が適切に行われている。	17	44	0	0	2	96.8%	91.9%		
28	いじめに 関する項目	いじめへの対応	いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組んでいる。	16	38	2	1	6	85.7%	88.7%		

令和 4 年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校

学校関係者評価書

対象校：横浜市立南高等学校
横浜市立南高等学校附属中学校

調査全体の日程

調査日：令和4年10月1日～令和5年3月31日

調査対象校：横浜市立南高等学校

横浜市立南高等学校附属中学校

調査チーム：横浜市立南高等学校・横浜市立南高等学校附属中学校 学校運営協議会

リーダー：高木 展郎（横浜国立大学教育学部名誉教授）

記録等担当者：小野寺 聡（横浜市立南高等学校副校長）

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況について

魅力ある高校教育の推進状況に関しては、教職員評価、保護者評価ともに、全体的には、高い評価となっており、本校のこれまでの教育成果が認められる。

生徒からの「授業評価」に関しては、項目の「自分自身について」において、特に「予習・復習」に関して評価が低い場合も認められ、自宅学習をどのようにするか課題が示されている。「授業評価」に関しては、一部課題はあるものの、全体的に高水準の結果となっている。

魅力ある学校づくりの中で、課題とされるのが「地域の方々の学校評価」である。そこでは、肯定的な回答が約半数あるものの、「分からない」という回答も約半数あり、今後の学校の対応が求められる。「分からない」と言う回答が重要であり、その解決に真摯に取り組むことが求められる。

中高の協力した取り組みは、昨年を引き続き、順調に充実してきている。その成果は、進路指導の取り組みにも成果として認められる。今後は、各教科でこれまで以上に連携を深め、カリキュラム・マネジメントを充実し、中高6カ年の学習指導及び学習評価を行うことが求められる。

今後に向けて、グローバル人材の育成に向けて、「総合的な探究の時間」の取り組み等を通し、「探究」的な学びのさらなる充実が求められる。

2 教育活動の状況

□進路指導の状況について

進路指導の取り組みとしては、進路ガイダンスや外部講師による進路講演会、保護者への情報提供を適切に行うとともに、生徒一人一人に合った進路指導を行っている。また、三者面談や二者面談も丁寧に行われている。そのことは、アンケート調査においても、継続的に肯定的な回答が高いことから見て取れる。

今後の課題としては、新教育課程が高等学校で始まっており、年次進行による進路指導が重要となる。特に、大学入学者選抜試験の変更の兆しが「総合型選抜」に出てきており、それに対応した授業づくりが今後重要になるので、その対応について準備する必要もある。

□学習指導の状況について

これまでの3年間は、学習に関してCOVID-19の影響があったが、令和4年度は、そこからかなり回復し、ほぼ正常の学習指導に取り組めるようになった。そのことは、「総合的な探究の時間」において、生徒アンケートの「主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった」の設問に対し、約7ポイントの上昇が認められることから成果が見て取れる。「総合的な探究の時間」での「探究」的な学びを、各教科においても「探究」的な学びを導入することにより、生徒の主体的な学びがより充実したものとなるので、その検討が求められる。

令和3年度から行われている中学校と高等学校の教員の授業改善の取り組みは、着実に実行されており、さらなる充実が求められる。中学校と高等学校の教員の授業への相互乗り入れが、これまで以上に充実させることにより、生徒の6年間を見通した学習指導の充実を図ることが可能になるので、今後の課題として提案したい。

□教育課程の状況について

COVID-19の影響により、本校の特色である海外研修が停止となった。学校全体の教育課程上、海外研修は重要な資質・能力の育成の場となっているものの、令和3年度、令和4年度と行った国内での研修では、海外研修に比べ教育効果が得づらい点はあるが、当面は国内の研修を充実させる方向で取り組んでほしい。本校における教育活動の基幹となっている海外研修に関して、学校としての対応や努力は大変強く認められるものの、国内研修では、その趣旨が十分に生かされているとは言えない状況である。海外研修は、本校の存立に関わる重要な教育課程であると言える。それが実施できていないのは、COVID-19の影響があるとは言え、残念である。

令和4年度入学の高等学校の生徒から、新教育課程が学年進行で実施される。入学者選抜試験の方法も変わりつつあり、その対応を図っていることは、評価できる。

今回の教育課程の改正は、これまでの知識・技能の習得を主とした学力観のみでなく、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の育成を統合的に図ることを目指している。そのためには、新学習指導要領の内容に合わせた授業づくりへの転換が求められている。教育課程の見直しのみではなく、生徒を主語とした「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりへの転換が重要となる。この教育課程の見直しに関しては、本アンケート調査からその取組、成果、課題、改善策を見取ることが難しいので、アンケート内容の再検討が必要と考える。

3 学校経営の状況

□組織運営及び教職員研修の状況について

令和3年度より改変された、学年会、セクション会(教務・総務・生活・生徒会・進路学習・国際企画)、企画会、職員会議を計画的に設定し、情報共有と議題調整を図り、中高統一した校内組織として業務の組織対応の充実が図られていることは、高く評価できる。一層の継続した取り組みが求められる。

教職員の研修として、授業改善に向けた一人一人の職員の意識向上を図ろうとしていることは、評価できる。その成果として、授業参観を行っていても、教師の一方的な講義は少なくなっていることが認められる。

授業改善に向けては、今後、「探究」の授業づくりが課題となることが予想される。そのためには、生徒を主語とした授業づくりが必要であり、「授業や先生について」のアンケート調査の項目が、それに見合ったものでないので、再検討が必要ではないか。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応について

いじめの問題は、「いつでも起こりうる」という考えの基、学校としての取り組みが、経年的に認められることは、評価できる。生徒に対しての教員の見取りも行われており、継続的に行うことが重要である。また、生活委員会のいじめ防止メンバーの生徒が、いじめ防止に取り組んでおり、その成果を認めることができる。

また、日常の授業で行っている様々な活動が、いじめの未然の防止に繋がること等も、教員研修で行っていることも評価できる。ただ、高等学校において生徒との対話をする時間の確保が難しいとの指摘もあり、その改善を図ることは難しい状況ではあるが、いじめが発生してからの対応では遅いので、その対策が求められる。

いじめへの対応は、対処的なものではなく、継続的にやっていくことが重要であり、地道な取り組みが求められる。

5 総評

学校全体としての教育活動の取り組みは、時代状況を適切に判断して、生徒の学校生活を充実させていることから、高く評価できる。また、授業においても生徒の満足度は全体的に高く、学校での主たる活動として充実した授業が行われている。そこには、教職員の日常的な生徒指導の成果が現れていることが認められ、高く評価できる。

一方、教職員に関しては、本校においても多忙化傾向にある。負担の軽減に向けて ICT を使用するなど、工夫していることは認められる。しかし、教職員の工夫のみでは解決できない状況であることを、社会的に認知することが求められる。

＜横浜市立南高等学校 中期学校経営方針＞

中期計画期間	令和3年4月～令和6年3月
学校教育目標	<p>(教育理念) 知性・自主自立・創造</p> <p>(教育目標) ○学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成 ○自ら考え、自ら行動する力の育成</p>
中期目標	<p>○併設型中高一貫教育校としての特色を生かし、6年間で身に付けさせたい資質・能力の育成が図れる計画的かつ継続的な教育課程を、中高教職員が協働してその編成・実施・評価・改善に取り組む。</p> <p>○総合的な探究の時間を軸に、様々な教育活動において、課題探究及び課題解決能力を育成し、国際社会で活躍できる人材を育成する。</p> <p>○研修等を充実させ、教員の一人ひとりの指導力をより一層向上させるとともに、組織的な取組を通して学校としての教育力を向上させる。</p>
目標設定の理由	<p>○併設型中高一貫教育校として、6年間の安定しかつ充実した教育環境の中で、一人ひとりの可能性を伸ばし、豊かな人間性と高い学力、国際社会で活躍する力の育成を目指している。</p> <p>○進学指導重点校としての役割を果たすべく、生徒の学力向上に組織的に取り組み、進路希望の実現を図ることにより、生徒・保護者・市民からの信頼を得て、選ばれる学校へとさらに発展させる。</p>
学校の特色づくりのための重点目標	
重点取組項目	取組目標
1 中高一貫教育の充実	<p>○南高等学校と南高等学校附属中学校の職員組織の円滑な連携・協働の推進を図る。</p> <p>○現行教育課程における指導の充実はもとより、令和4年度から年次進行で実施される新学習指導要領の実施に向けて、6年間を通して身に付ける資質・能力を共有し、指導と評価の一体化をさらに進めていく。</p>
2 指導力の向上	<p>○外部人材を活用した校内授業研修会や公開授業を開催し、指導力の一層の充実を図り、授業改善を推進する。</p>
3 学校広報の充実	<p>○より多くの生徒・保護者・地域等に、本校の特色ある教育活動に対する理解を深めてもらえるよう、学校広報活動の充実・改善を図る。</p>
人材育成の取組目標	
<p>○「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、全教員が校内授業研修会や公開授業に参加し、教育顧問等からの指導・助言を受け、授業力の向上を図る。</p> <p>○横浜市人材育成指標に基づき、市教育委員会が実施する研修と連動させながらキャリアステージに応じた教師力の向上を図る。</p>	

中期学校経営方針における 13 の取組分野

取組分野		取組目標
1	教育目標等の設定・実施	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が誇りをもって働き、生徒が希望をもって意欲的に学ぶ学校づくりを進める。 ○自主自立の精神を培い調和のとれた人間を育成する指導を推進する。
2	組織運営 (働き方改革) 教職員研修	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校と高等学校が連携し、組織を円滑かつ効率的に運営することで、業務の見直しを図りつつ、超過勤務の削減に対して意識的に取り組む。 ○横浜市人材育成指標に基づき、研修を有効に活用することで、常に学び続ける姿勢を持つ。
3	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ○中高一貫教育校として、6年間の学習を計画的かつ継続的に行うため、教育課程の研究を一層推進し、改善を行う。 ○総合的な探究の時間において、生徒の課題探究能力や課題解決能力の育成を図る。 ○進学指導重点校として教育課程の不断の改善を行う。
4	教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ○研修や校内授業研修会や公開授業、授業参観等を通じた授業改善を行う。 ○授業力の向上による生徒の一層の学習意欲の喚起を促し、望ましい学習習慣を定着させると共に、学力を向上させる。
5	特別活動 部活動	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会行事やホームルーム活動を通して、人間関係調整力や責任感、リーダーシップなど、社会で生きる力を育成する。 ○発達段階に合わせた適切な部活動や学校行事、特別活動の研究を行う。
6	生徒指導 教育相談 (特別支援)	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶の励行や社会的規範意識の向上を指導する。 ○教育相談や研修など、必要に応じて外部機関と連携し、生徒理解を深めるとともに、適切な指導を積極的に行う。
7	キャリア教育 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の観点に立った大学や企業との連携により、自己の適性を知り、自ら学ぶ態度を身に付けさせる。 ○妥協しない進路実現を図るために、計画的・継続的な指導を行う。
8	保健指導 環境美化	<ul style="list-style-type: none"> ○食育全体計画・学校保健計画・学校安全計画を策定し、食育・保健指導・安全指導等を実施する。
9	学校経理 施設・設備 情報の管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校予算の効率的かつ適切な執行については、中学校と連携し、学校事務職員だけではなく教職員全体で意識の向上を図る。 ○「横浜市におけるGIGAスクール構想」に基づき、視聴覚教育や教育のICT化をさらに推進する。
10	保護者・地域等 との連携協力	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA・同窓会・後援会との協働による教育支援体制の強化を図る。 ○保護者会・懇談会等を通して、保護者との連携協力を推進する。 ○体育祭や文化祭で、本校の教育活動を広く公開する。
11	危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校防災・防犯プランをもとに、緊急物資の備蓄や防災指導・防犯指導等を充実させるとともに、緊急メール配信システムを適切に運用する。 ○新型コロナウイルス感染症にかかる適切な対応を行う。
12	学校に関する 情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページの適切な運用等、学校広報活動のさらなる充実を図る。 ○学校評価を活用した学校情報の公開を推進する。
13	いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が一体となり、深い生徒理解を通じて生徒一人ひとりが安全で、安心して学校生活を送れる環境をつくる。 ○生徒の自己有用感を高め、いじめを許さない学校づくりを進める。